

2019年3月期 決算説明会



2019年 5月20日

株式会社 小森コーポレーション

1. 2019年3月期の業績および次期計画

取締役管理本部長 松野 浩一

2. 経営概況について

代表取締役社長 持田 訓

2019年3月期の業績および次期計画



2019年 5月20日

株式会社 小森コーポレーション

目次

P.5~ 7	決算概要 P/L・B/S・C/F
P.8	売上高・損益の推移
P.9~12	地域別・品目別 受注高
P.13~16	地域別・品目別 売上高
P.17	受注残高の推移
P.18	製品在庫の推移
P.19	営業損益の変動要因
P.20~25	業績見通し
P.26	設備投資・減価償却費・開発費
P.27~36	地域別 受注高・売上高 詳細

決算概要 P/L

(単位:億円)

		当期実績 2019/3	前期実績 2018/3	差額	前期比	通期計画 2019/3	差額	計画比
受注高		935	884	51	106%	970	△35	96%
売上高		902	942	△39	96%	930	△28	97%
営業利益		27	37	△10	72%	15	12	180%
経常利益		25	44	△19	57%	18	7	139%
親会社株主に帰属する 当期純利益		14	31	△16	46%	11	3	130%
平均レート(円)	US\$	110.69	110.81	/		107.73	/	
	EUR	128.43	129.45			127.63		
期末レート(円)	US\$	110.99	106.24			105.00		
	EUR	124.56	130.52			125.00		

主な資産・負債

(単位:億円)

	当期末 2019.3.31	前期末 2018.3.31	差額
現金・預金	340	431	△92
売上債権	262	266	△4
有価証券	152	207	△55
棚卸資産	322	278	44
うち製品	133	118	15
有形固定資産	319	328	△9
無形固定資産	22	21	2
仕入債務	204	189	15
短期借入金	0	2	△2
社債	0	100	△100
長期借入金	0	0	0
株主資本	1,292	1,302	△9
総資産	1,674	1,812	△138

注)「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており一部科目(繰延税金資産・繰延税金負債)の組替え(資産と負債の相殺含む)をしております。比較対象とする前期末の貸借対照表の表示についても同様に組替えられた数値で表示しており、その結果、前期末の総資産の額が、変わっております。

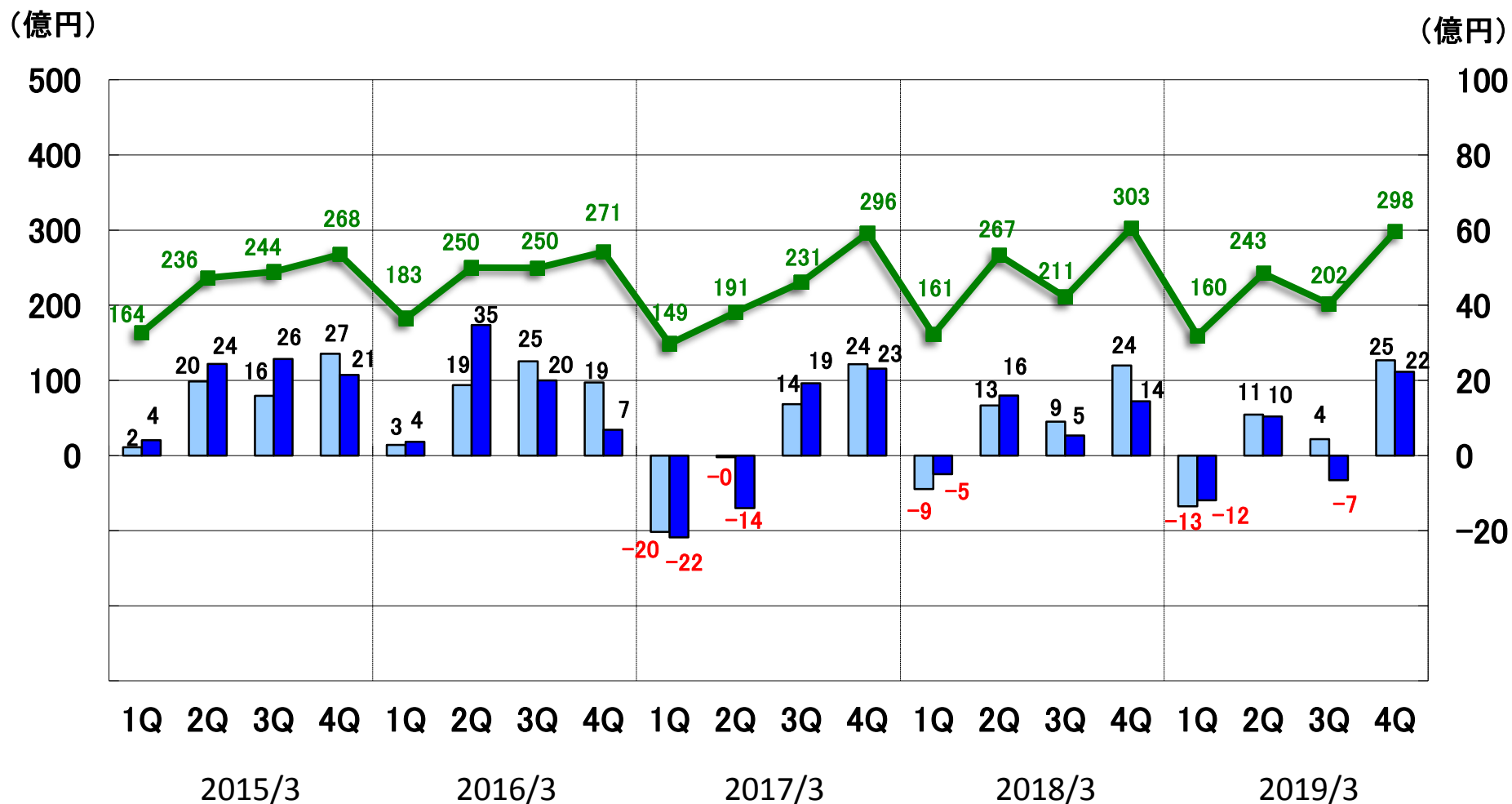
キャッシュ・フロー

(単位:億円)

	当期 2019/3	前期 2018/3	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1	61	△60
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4	3	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 128	△ 23	△104
現金及び現金同等物の期末残高	457	588	△132

売上高・損益の推移

■ 売上高(左目盛)
 ■ 営業利益(右目盛)
 ■ 親会社株主に帰属する四半期純利益(右目盛)

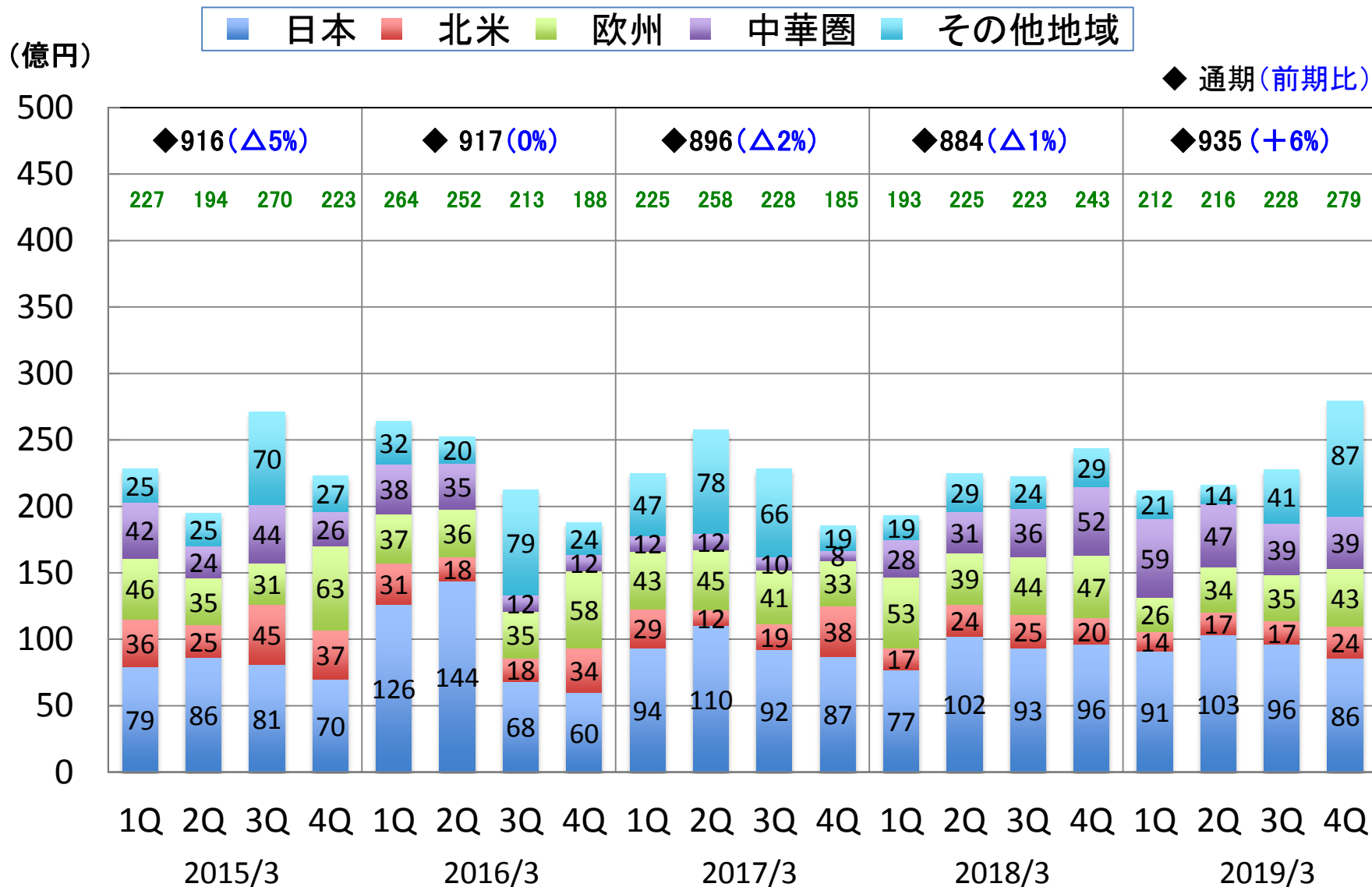


地域別受注高

(単位：億円)

	当期実績 2019/3	前期実績 2018/3	前期比	通期計画 2019/3	計画比
日 本	376	368	102%	430	87%
北 米	73	85	86%	86	85%
(百万ドル)	(66)	(77)	(86%)	(80)	(83%)
欧 州	138	183	76%	141	98%
(百万ユーロ)	(108)	(141)	(76%)	(111)	(97%)
中 華 圏	184	147	126%	189	97%
そ の 他 地 域	163	100	163%	123	132%
合 計	935	884	106%	970	96%

地域別受注高



品目別受注高

(単位: 億円)

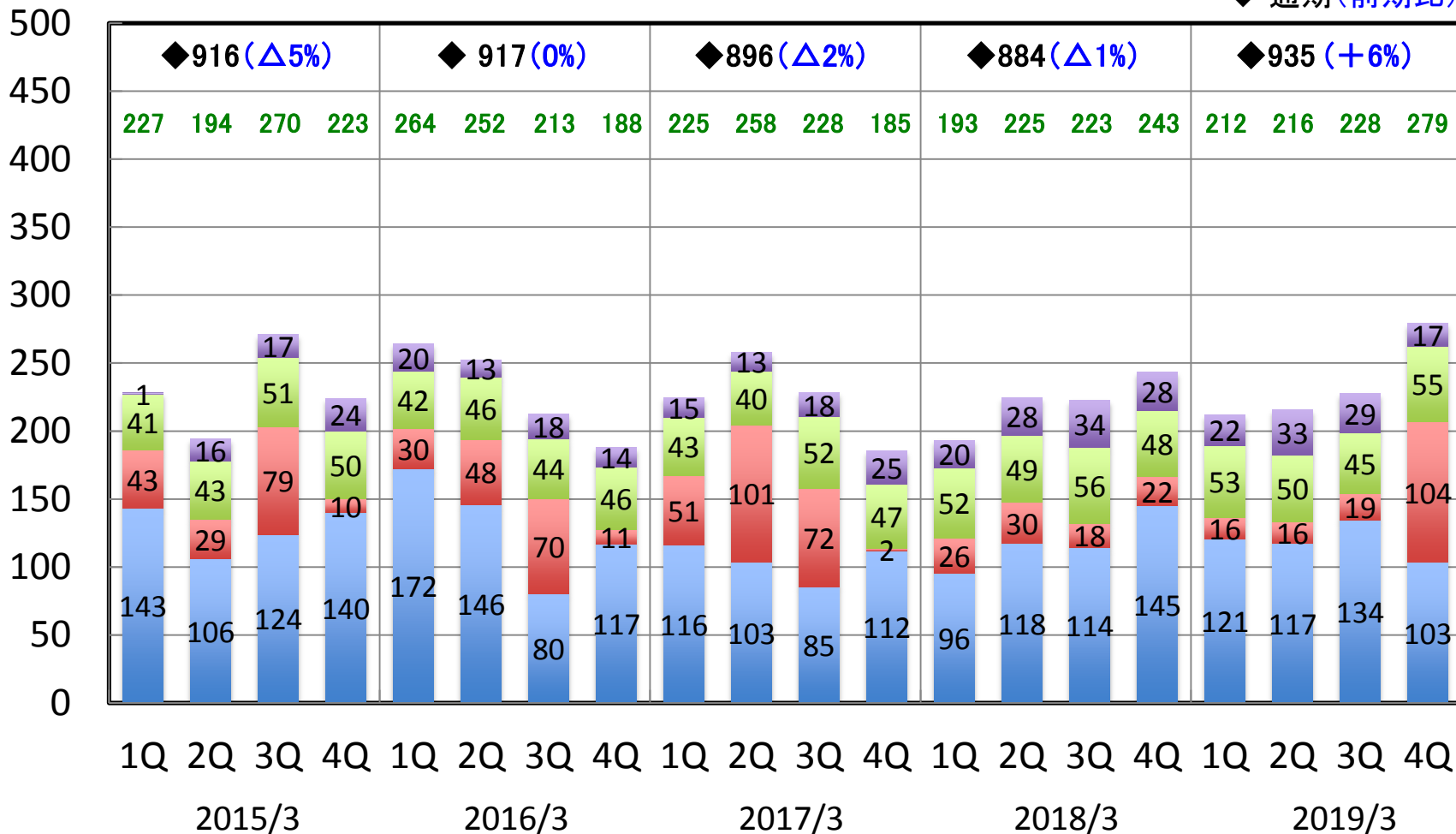
	当期実績 2019/3	前期実績 2018/3	前期比	通期計画 2019/3	計画比
枚 葉 機	475	472	101%	510	93%
輪転機・証券印刷機	154	95	162%	102	151%
中古・部品修理	203	205	99%	219	93%
DPS・PE・その他	101	111	91%	138	73%
合 計	935	884	106%	970	96%

品目別受注高

■ 枚葉機 ■ 輪転機・証券印刷機 ■ 中古・部品修理 ■ DPS・PE・その他

(億円)

◆ 通期(前期比)



地域別売上高

(単位：億円)

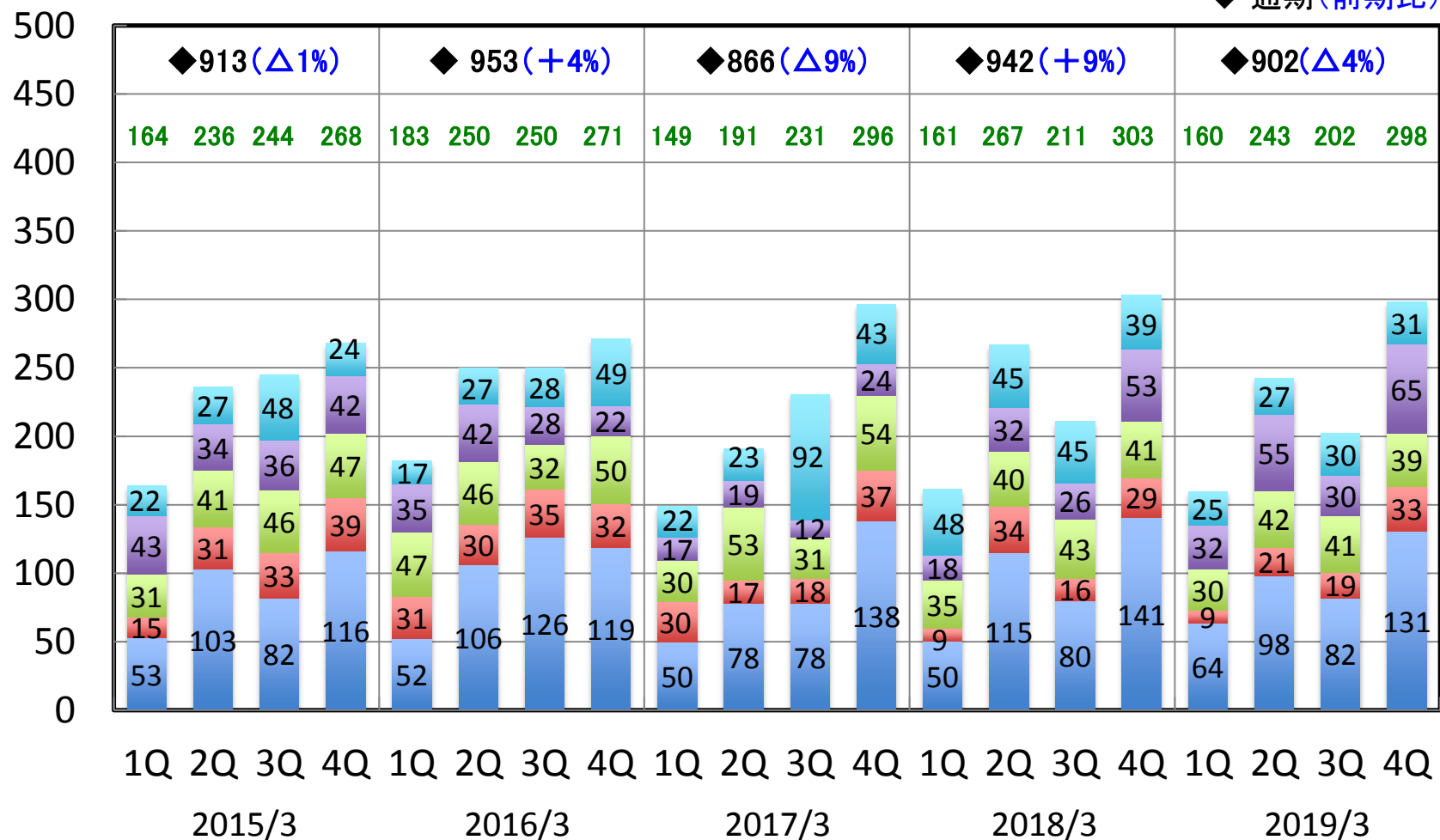
	当期実績 2019/3	前期実績 2018/3	前期比	通期計画 2019/3	計画比
日 本	374	386	97%	393	95%
北 米	81	89	91%	92	88%
(百万ドル)	(73)	(80)	(91%)	(85)	(86%)
欧 州	152	160	95%	148	102%
(百万ユーロ)	(118)	(124)	(96%)	(116)	(102%)
中 華 圏	182	129	141%	177	103%
そ の 他 地 域	113	178	64%	119	95%
合 計	902	942	96%	930	97%

地域別売上高

■ 日本 ■ 北米 ■ 欧州 ■ 中華圏 ■ その他地域

(億円)

◆ 通期(前期比)



品目別売上高

(単位：億円)

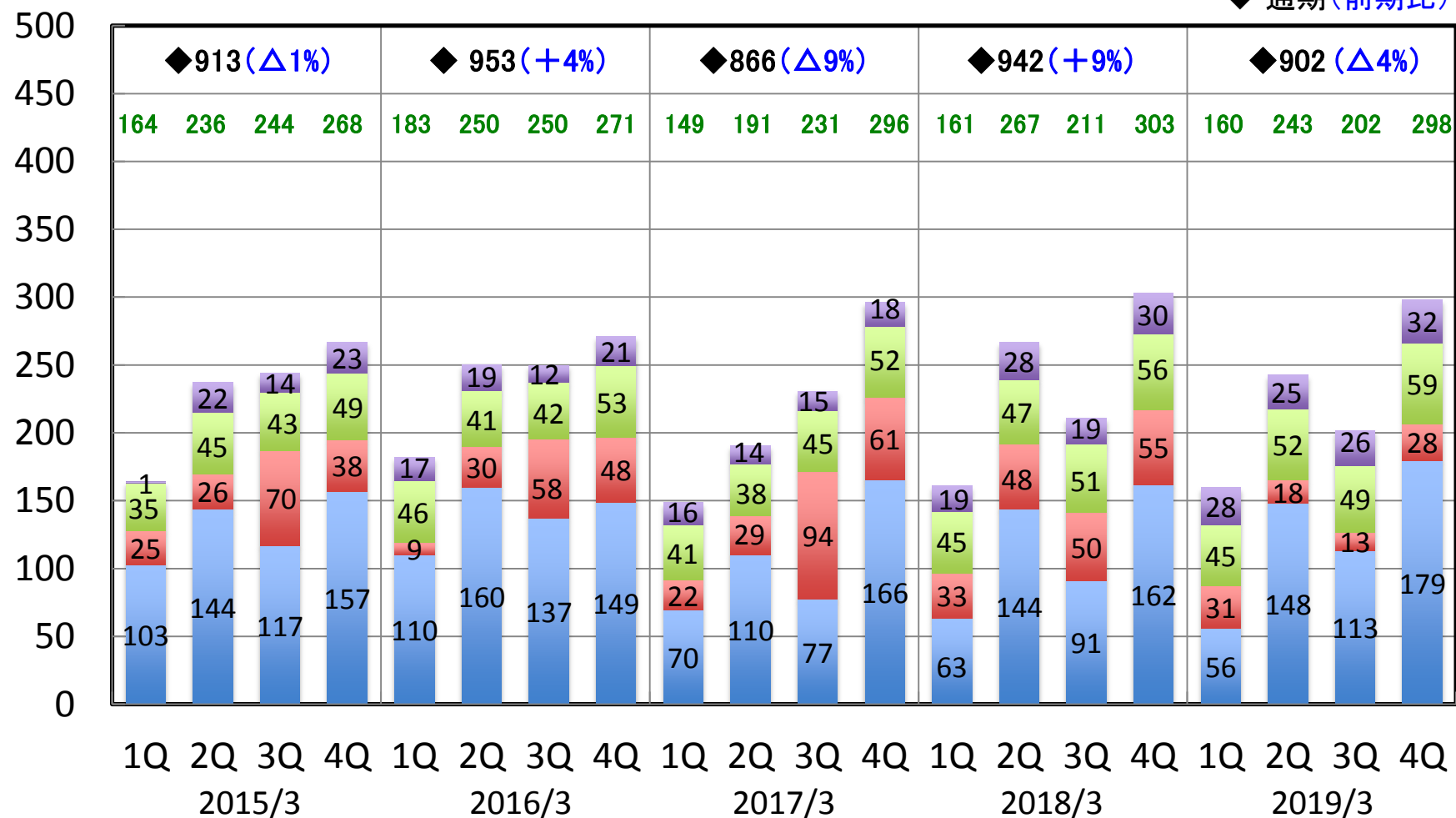
	当期実績 2019/3	前期実績 2018/3	前期比	通期計画 2019/3	計画比
枚 葉 機	497	461	108%	503	99%
輪転機・証券印刷機	90	186	48%	92	98%
中古・部品修理	206	199	103%	207	99%
DPS・PE・その他	110	96	115%	128	86%
合 計	902	942	96%	930	97%

品目別売上高

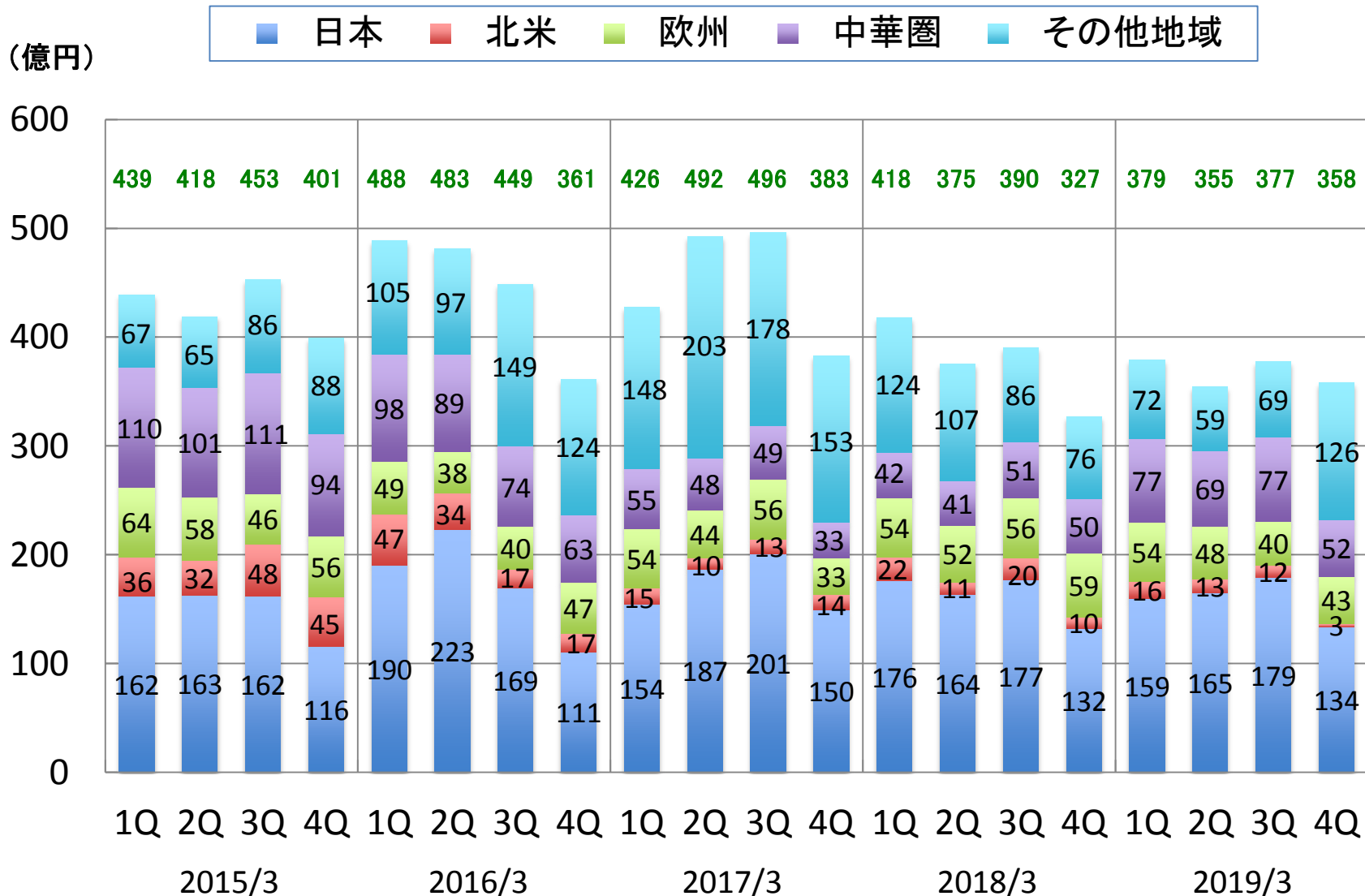
■ 枚葉機 ■ 輪転機・証券印刷機 ■ 中古・部品修理 ■ DPS・PE・その他

◆ 通期(前期比)

(億円)

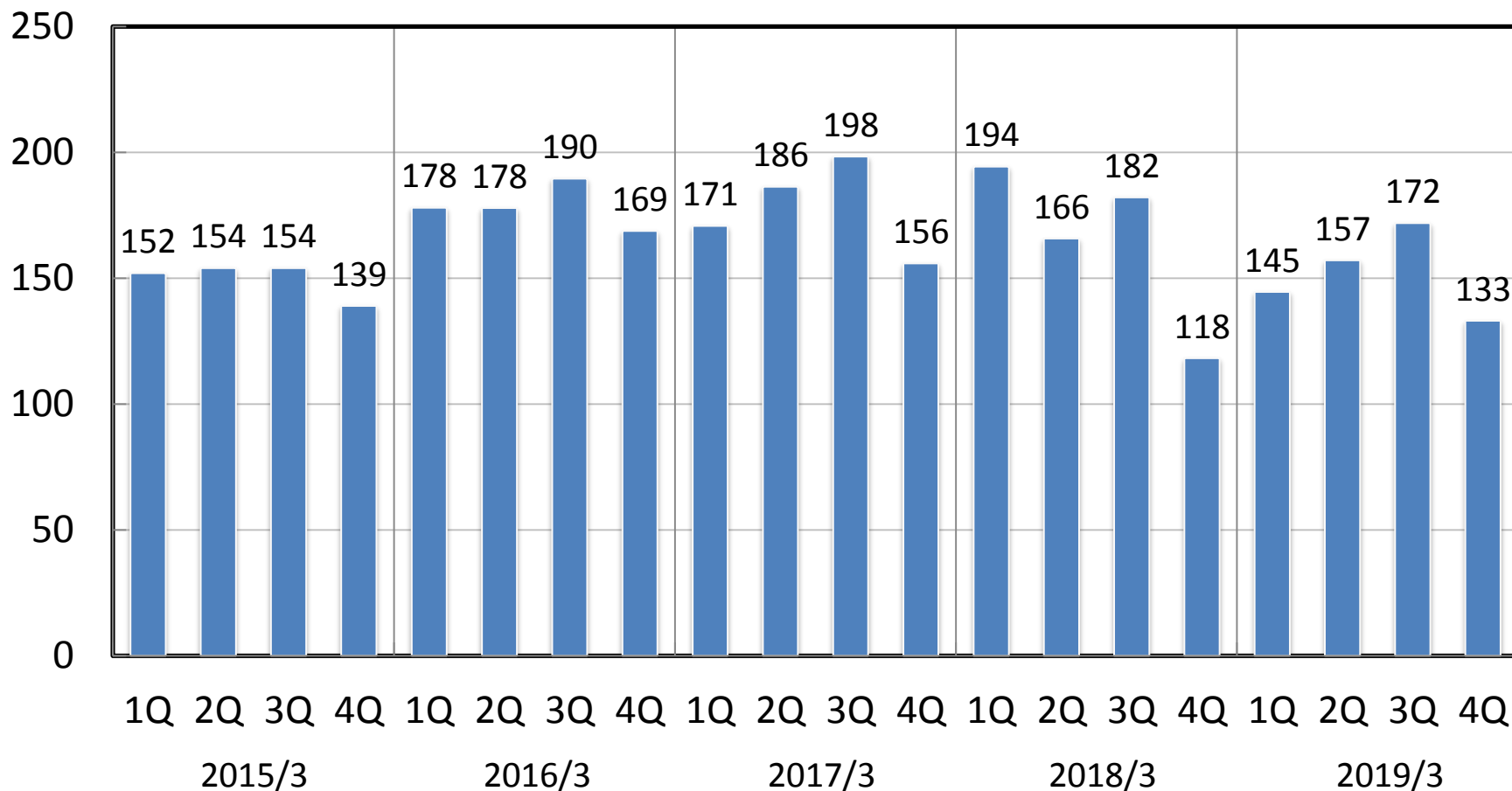


受注残高の推移



製品在庫の推移(原価ベース)

(億円)



営業損益の変動要因(対 前期比)



業績見通し

(単位:億円)

		2020/3			2019/3 前期実績	差額	前期比
		上期計画	下期計画	通期計画			
受注高		440	560	1,000	935	65	107%
売上高		415	517	932	902	30	103%
営業利益		△ 4	27	23	27	△ 4	85%
経常利益		△ 4	28	24	25	△ 1	96%
親会社株主に帰属する 当期純利益		△ 7	21	14	14	0	98%
平均レート(円)	US\$	105.00	105.00	105.00	110.69	/	/
	EUR	120.00	120.00	120.00	128.43		
期末レート(円)	US\$	105.00	105.00	105.00	110.99		
	EUR	120.00	120.00	120.00	124.56		

地域別受注高 予想

(単位:億円)

	2020/3			2019/3 前期実績	差額	前期比
	上期計画	下期計画	通期計画			
日 本	201	205	406	376	30	108%
北 米	26	59	85	73	12	117%
(百万ドル)	(25)	(56)	(81)	(66)	(15)	(123%)
欧 州	58	95	154	138	15	111%
(百万ユーロ)	(48)	(80)	(128)	(108)	(20)	(119%)
中 華 圏	93	86	179	184	△6	97%
そ の 他 地 域	63	114	177	163	14	109%
合 計	440	560	1,000	935	65	107%

品目別受注高 予想

(単位:億円)

	2020/3			2019/3 前期実績	差額	前期比
	上期計画	下期計画	通期計画			
枚 葉 機	231	268	499	475	24	105%
輪転機・証券印刷機	50	104	154	154	0	100%
中古・部品修理	100	113	213	203	10	105%
DPS・PE・その他	58	75	134	101	32	132%
合 計	440	560	1,000	935	66	107%

地域別売上高 予想

(単位:億円)

	2020/3			2019/3 前期実績	差額	前期比
	上期計画	下期計画	通期計画			
日 本	164	221	385	374	10	103%
北 米	17	65	82	81	1	102%
(百万ドル)	(16)	(62)	(78)	(73)	(5)	(107%)
欧 州	60	86	146	152	△6	96%
(百万ユーロ)	(50)	(72)	(122)	(118)	(3)	(103%)
中華圏	96	66	163	182	△20	89%
その他地域	78	78	156	113	43	138%
合 計	415	517	932	902	30	103%

品目別売上高 予想

(単位:億円)

	2020/3			2019/3 前期実績	差額	前期比
	上期計画	下期計画	通期計画			
枚 葉 機	201	259	459	497	△37	93%
輪転機・証券印刷機	65	58	123	90	33	137%
中古・部品修理	100	116	216	206	10	105%
DPS・PE・その他	49	84	133	110	23	121%
合 計	415	517	932	902	30	103%

2020/3月期 営業損益(予想)の変動要因(対 前期比)

(億円)

合計 $\Delta 4$ 億円

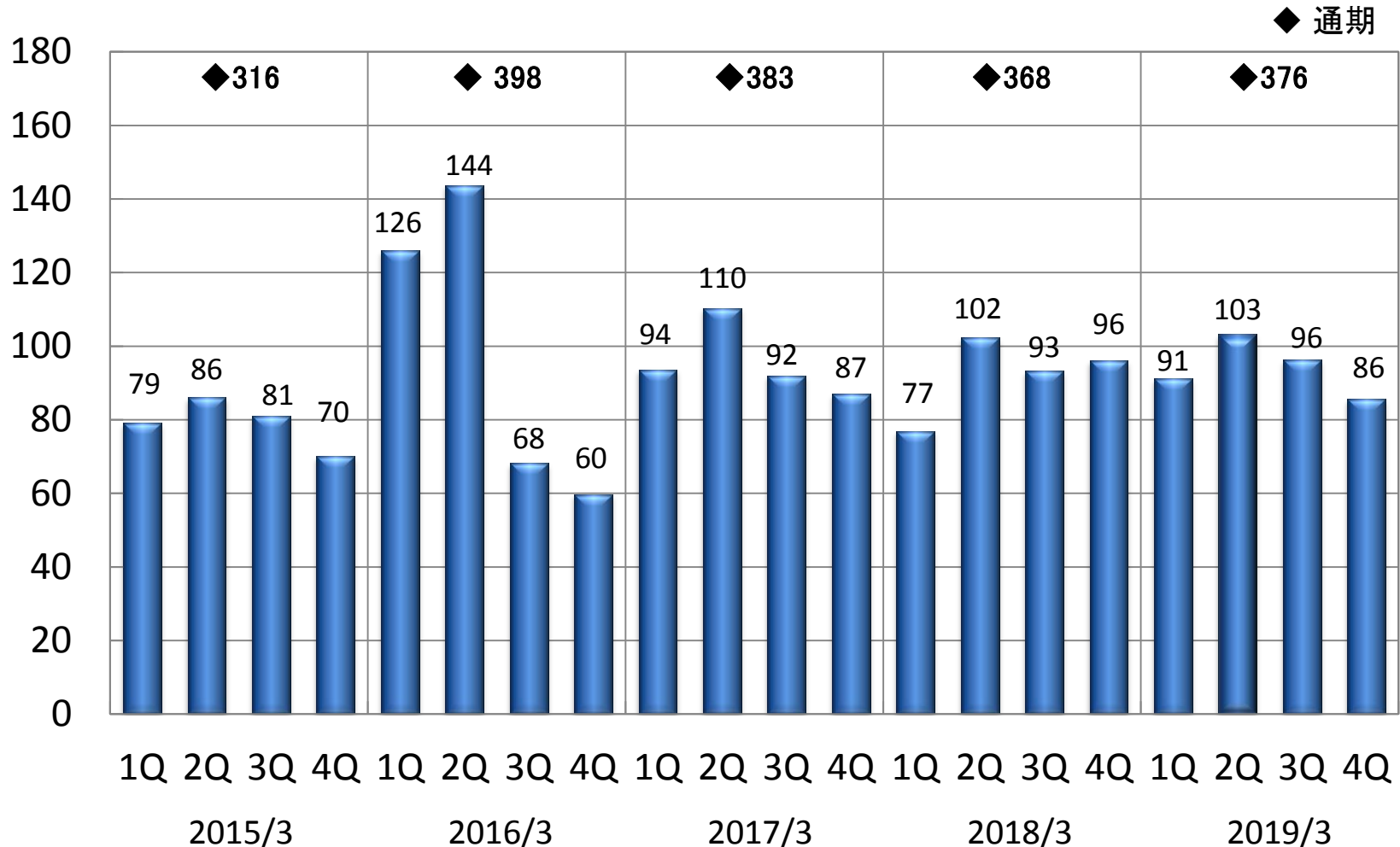
設備投資・減価償却費・開発費

(単位:百万円)

	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3 予想
従業員数(名)	2,106	2,189	2,195	2,227	2,335	2,370
人件費	19,796	20,495	20,317	20,245	20,908	20,700
設備投資額	2,116	3,126	1,455	1,201	1,334	2,100
減価償却費	1,860	2,027	2,133	1,889	1,965	2,100
研究開発費	5,123	4,975	4,885	4,785	4,740	4,700
(売上高比)	(5.6%)	(5.2%)	(5.6%)	(5.1%)	(5.3%)	(5.0%)

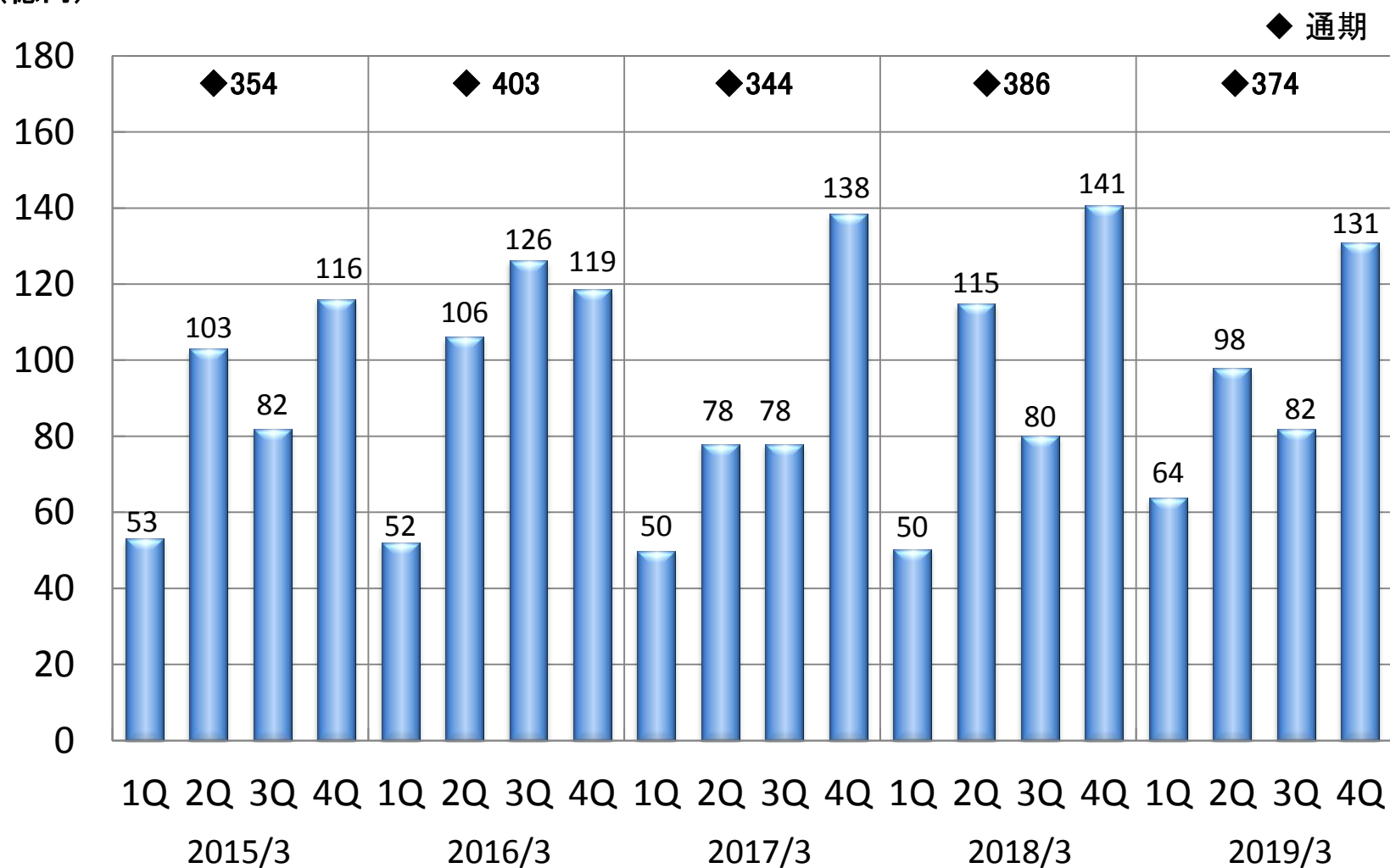
日本 受注高

(億円)



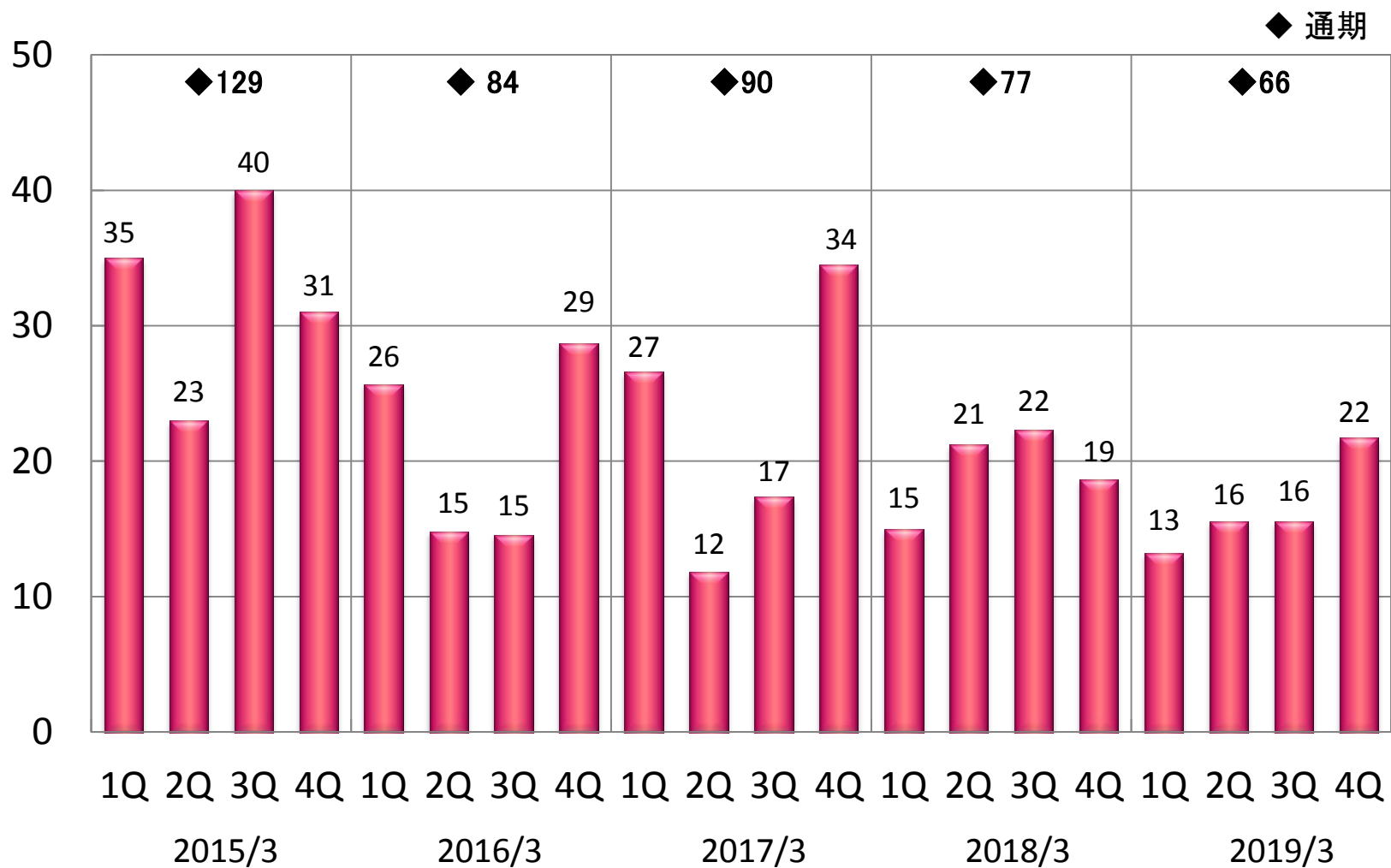
日本売上高

(億円)



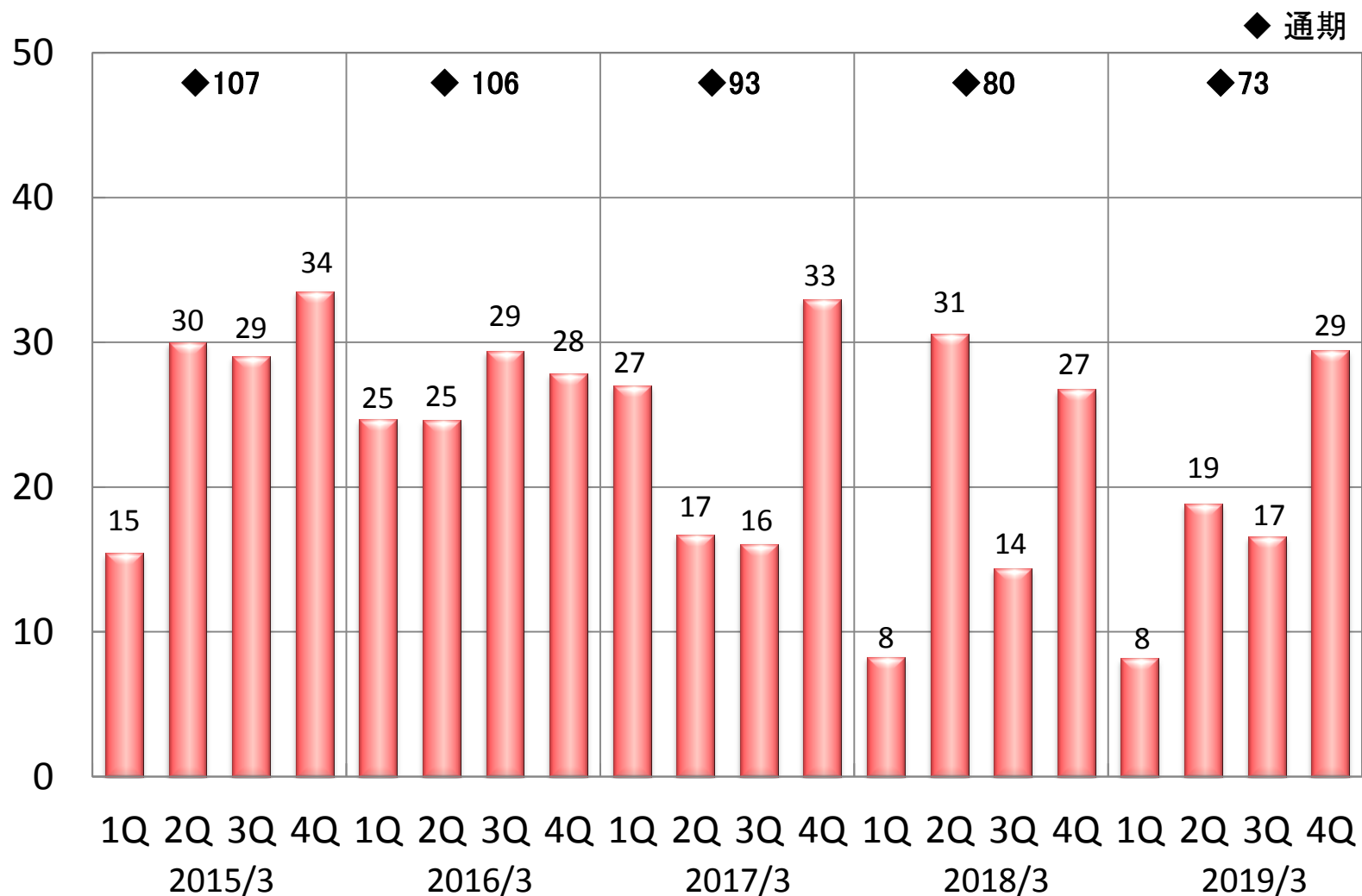
北米 受注高

(million \$)



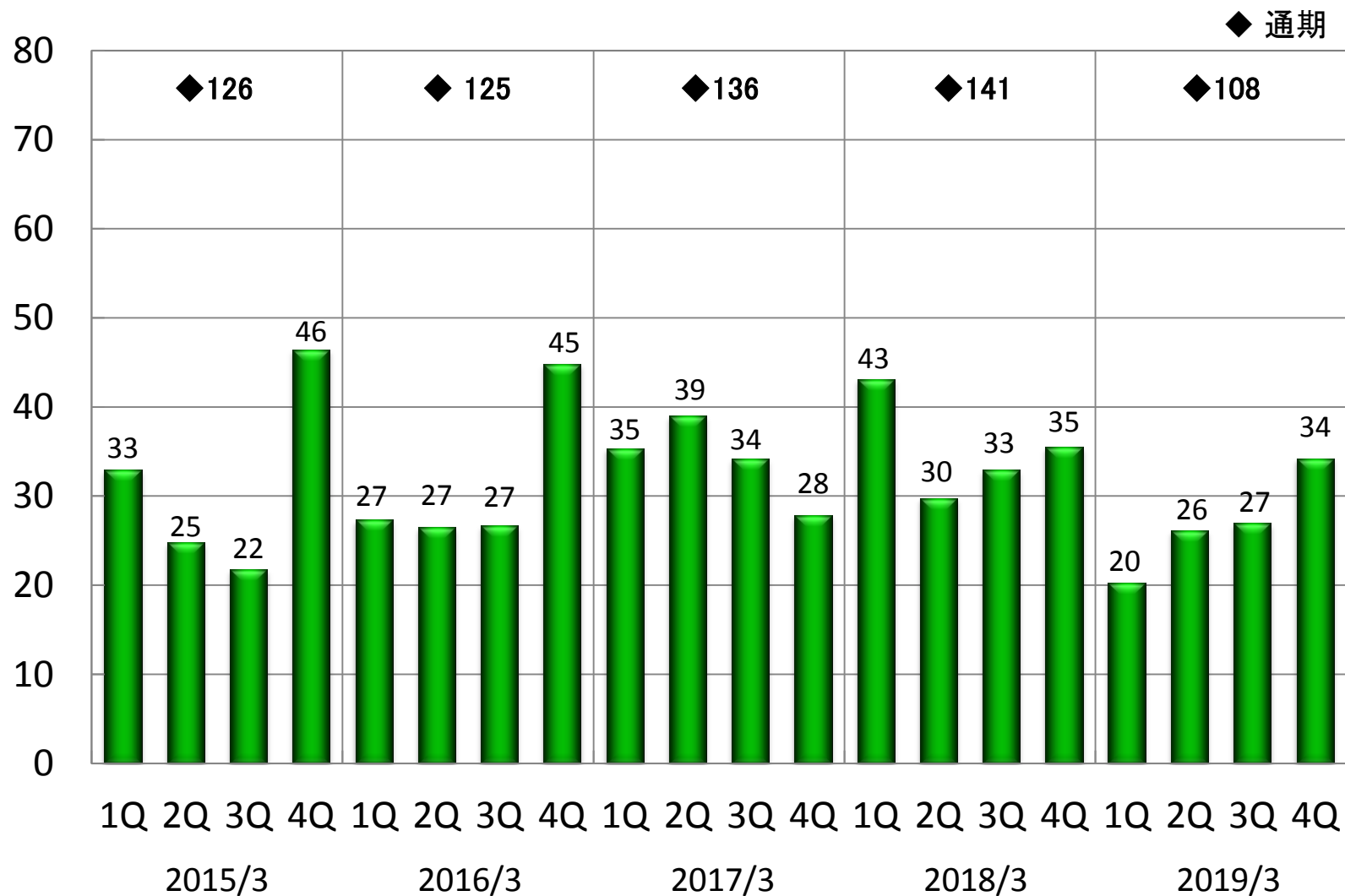
北米売上高

(million \$)



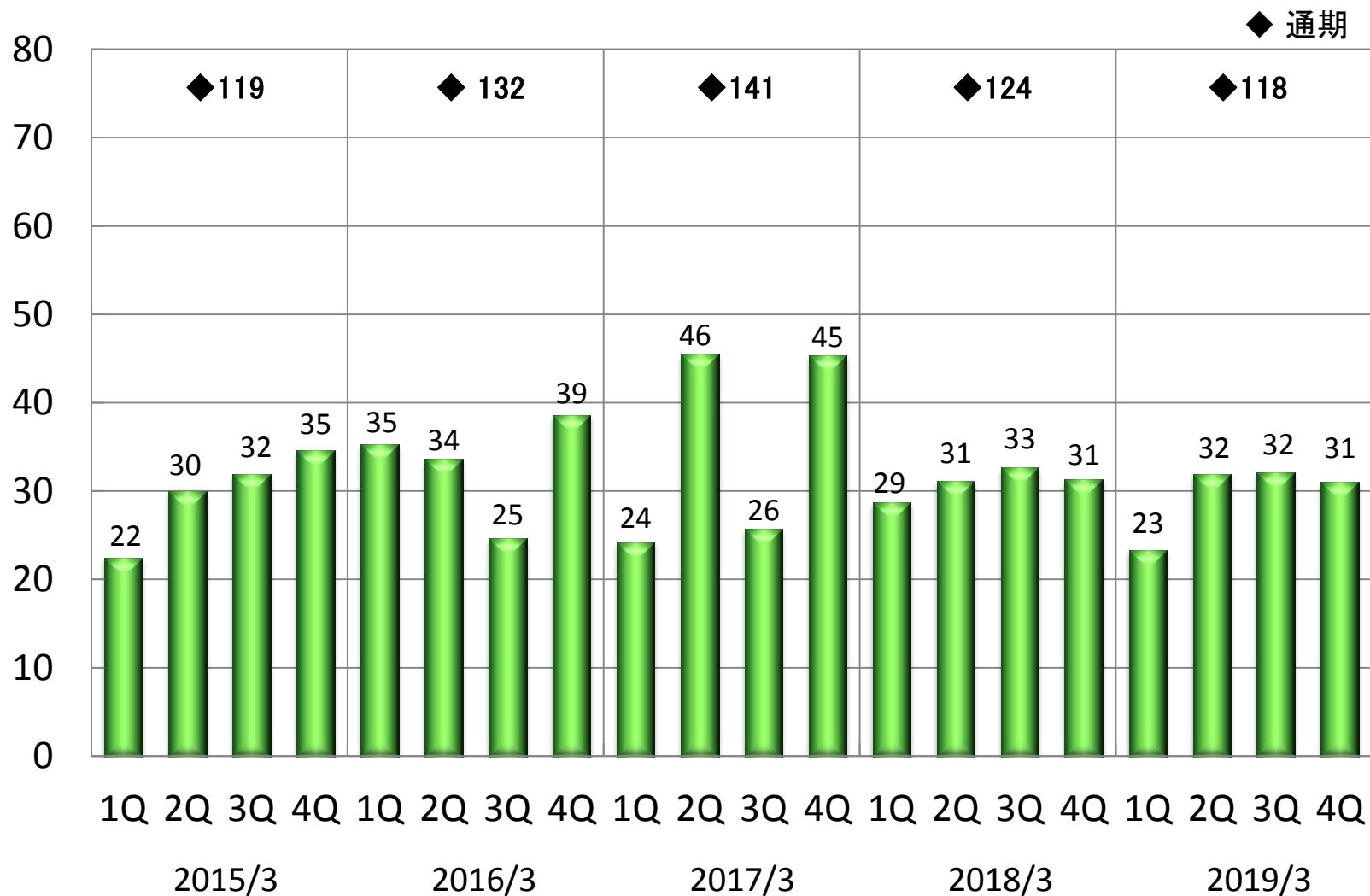
欧州 受注高

(million EUR)



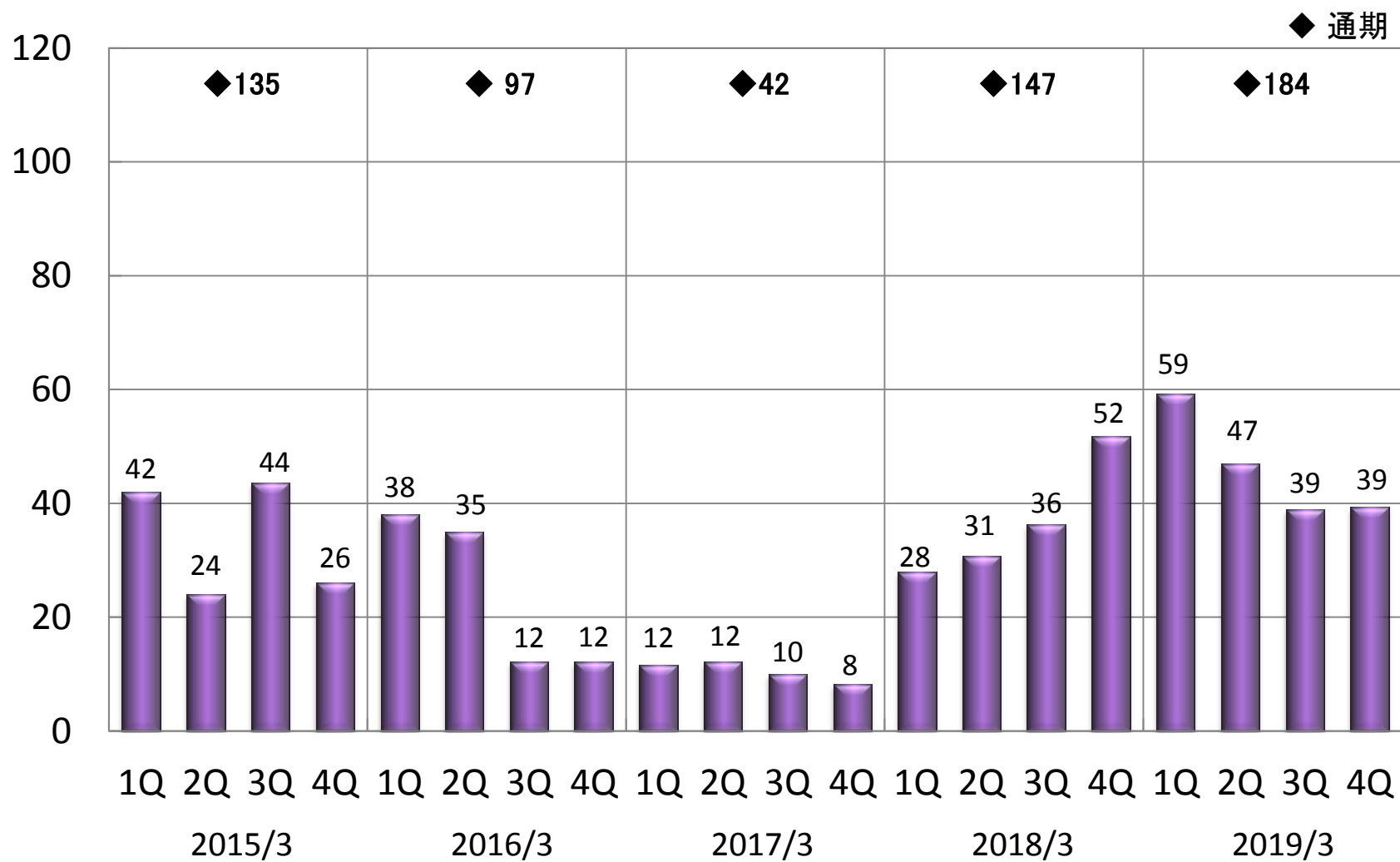
欧州 売上高

(million EUR)



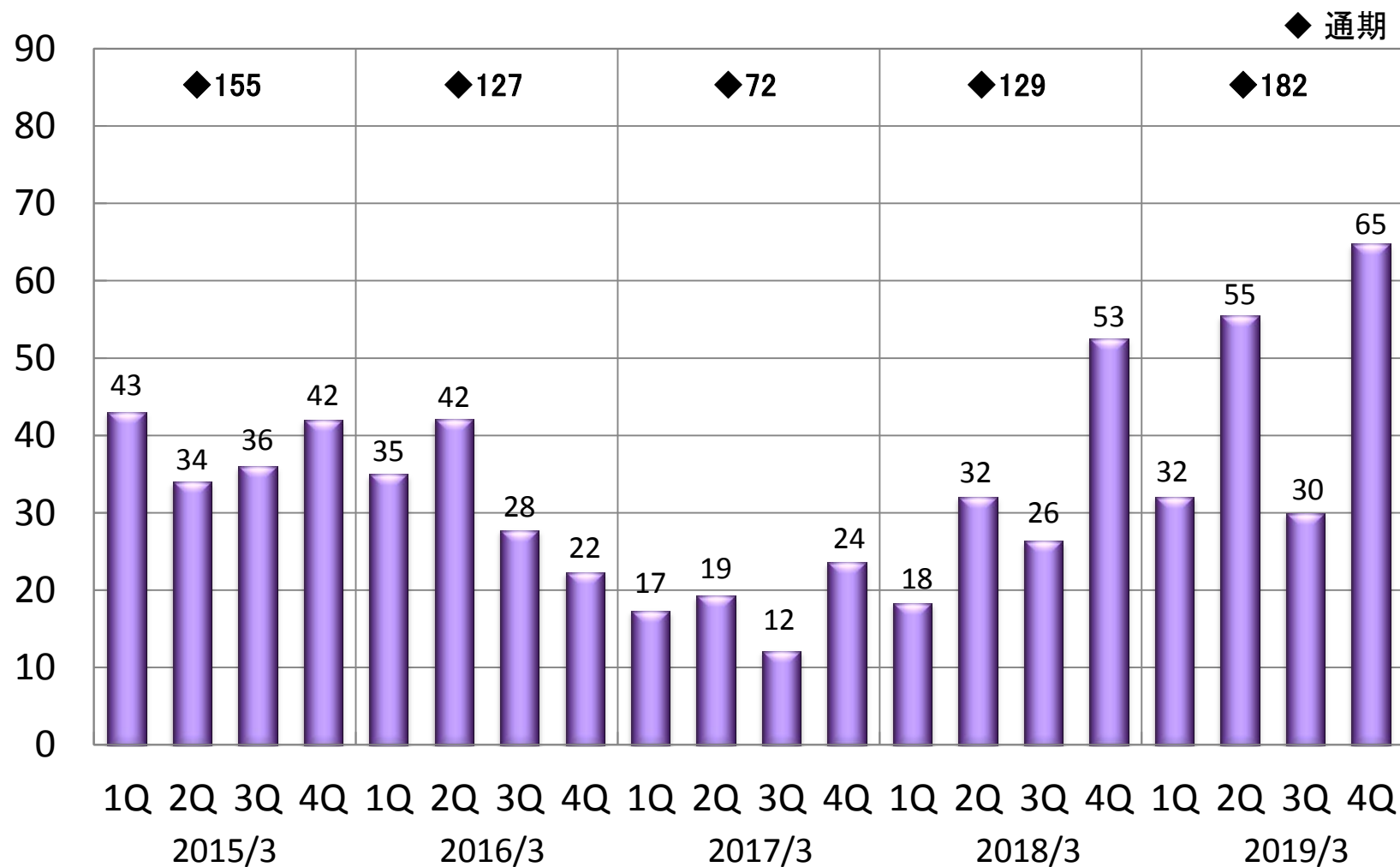
中華圏 受注高

(億円)



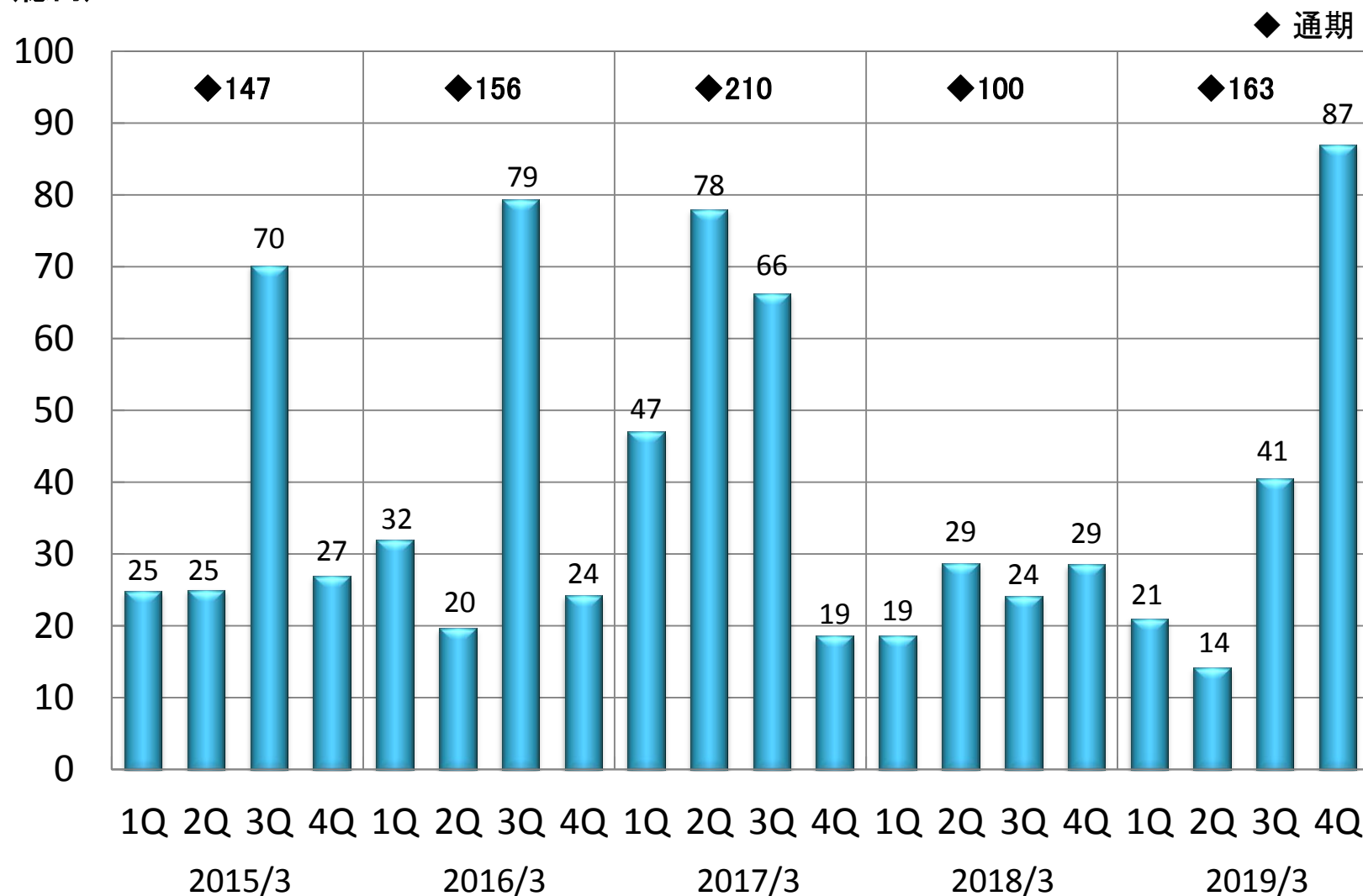
中華圏売上高

(億円)



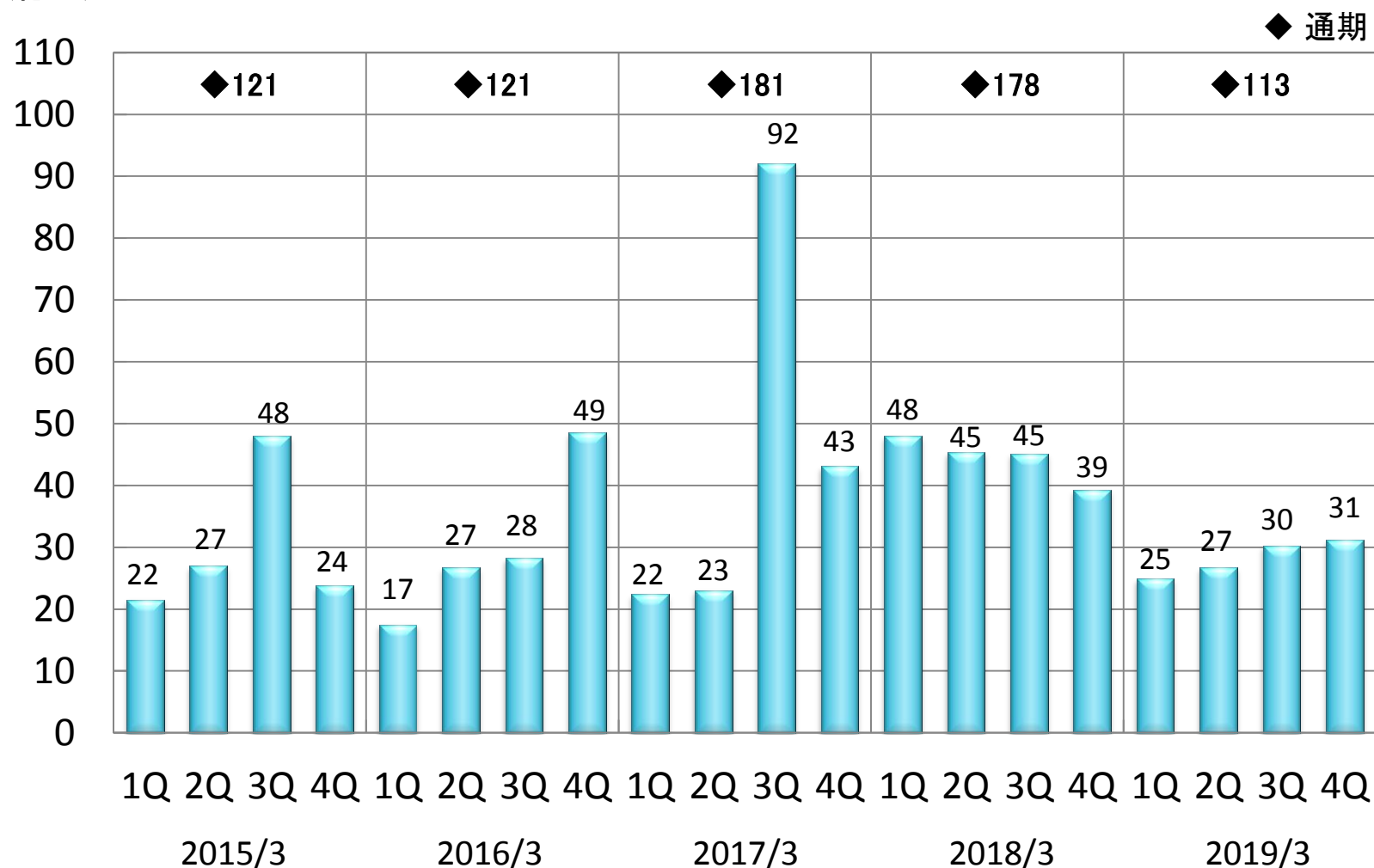
その他地域 受注高

(億円)



その他地域 売上高

(億円)



2019年3月期 経営概況



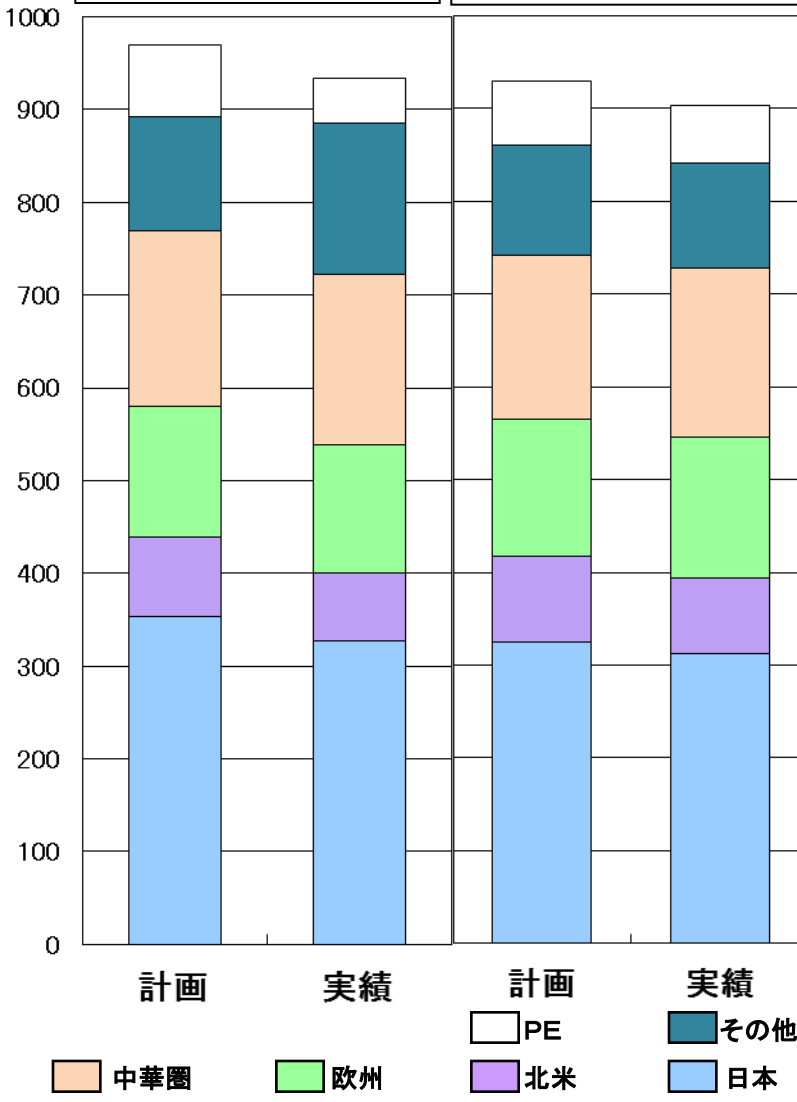
2019年5月20日

株式会社 小森コーポレーション

I. 2019年3月期 (4月～3月) 実績

2019年3月期計画実績比較

(億円) **受注高** **売上高**
970/935 **930/902**
 計画比：96% 計画比：97%



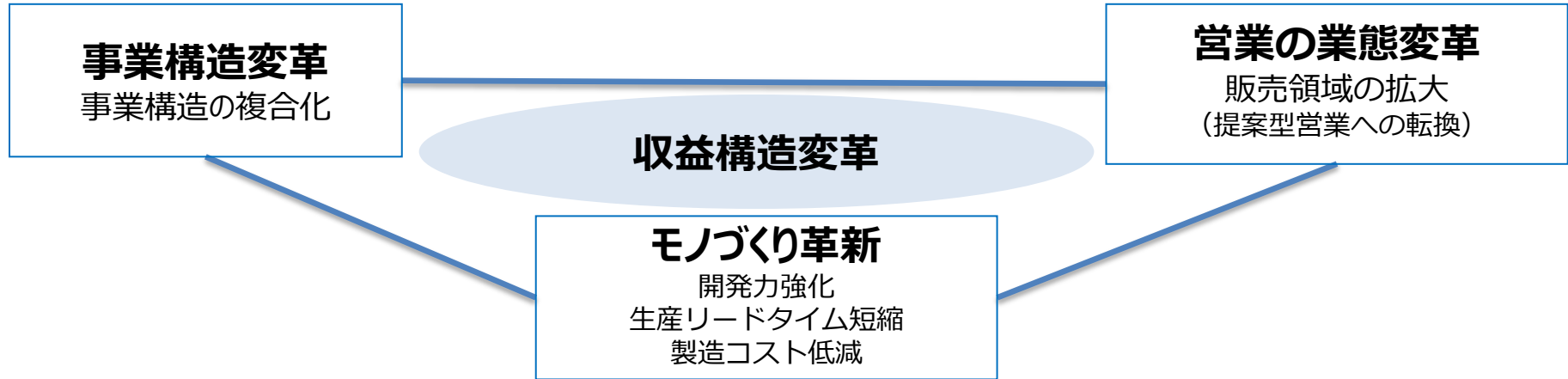
	計画との差異	主な要因
日本	△26	<ul style="list-style-type: none"> ・枚葉機は菊半市場が縮小する一方で菊全は堅調でありシェア50%以上を安定的に獲得。 ・オフ輪は依然として設備投資に慎重な状態。 ・IS29は引合いが着実に増加し今後に期待。
	△13	
北米	△13	<ul style="list-style-type: none"> ・オフセット機はほぼ計画通りの台数を販売するも、デジタル機販売が停滞した。 ・DPS機市場は活況で引合いは多数あるが、IS29拡販にむけた販売の差別化が課題。
	△11	
欧州	△3	<ul style="list-style-type: none"> ・仏国、設備減税終了の反動。英国、BREXITの影響、受注/売上げ共に減少。イタリアは設備投資減税の延長により引合いが活況。欧州全体の景況は悪化方向、設備に慎重となる。 ・IS29は米国同様に販売の差別化が必要。
	+3	
中華圏	△5	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化、省力化、両面ワンパス機を中心とした高付加価値機の受注が好調。 ・パッケージの引合いが増加し受注割合も上向き ・米中貿易戦争の懸念はあるものの、内需向けの印刷物は底堅く引合も多い。
	+5	
その他	+40	<ul style="list-style-type: none"> ・新興国通貨安（インド・インドネシア・フィリピン）の影響で販売計画が未達。 ・証印は、下期よりフランス、インドネシア、中国、インドの大型商談が決定。その他の国々からの引合も継続して好調。
	△6	
PE	△28	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年から昨年前半にかけて電子業界の活況を受け国内は計画達成したが海外は目標未達。 ・下期以降は引合いが大幅に減り受注が乖離したが、足許の引合いは回復してきている。
	△6	
全社	△35	上段：受注 下段：売上 単位：億円
	△28	

Ⅱ.第5次中期経営計画の進捗結果

第5次中期経営計画('16/4~'19/3)骨子

- ◆事業構造変革による事業構造の複合化、営業の業態変革による販売領域の拡大、モノづくり革新による開発力強化・コスト低減を推し進めることによって、収益構造の変革を図る

中期経営計画 ～変革 “Planned Change”の完遂～



重点戦略

- ソリューション営業、PESP事業拡大
(ICTシステム展開、資材・機材・保守等のPESP商品の拡販)
- DPS事業のビジネスモデル構築・事業化 (オフセットとデジタルの融合)
- モノづくりの抜本的な変革 (生産方式の変革、新3工場体制構築)
- 事業間のシナジー効果創出による差別化強化
- 新人事制度の定着、体系的な人財育成、海外人財の活用
- 間接業務の効率化・SGA20
- 財務戦略・M&Aの具体化

企業価値のさらなる向上と持続的な事業成長の実現

◆オフセット印刷機事業

- ・成長市場であるパッケージ及びアジア重点市場に市場要望の高い商品の提案と人手不足の課題に対する、高付加価値、高生産性の提案を強化し販売拡大を狙う
- ・drupaに向けた商品戦略と拡販戦略の実行

2019年3月期の成果

▶IGASキャンペーンの全世界展開による拡販

- ・日本アジア戦略機の市場投入(GL837P)
- ・H-UV/販売以来1000台を突破

▶重点市場対策の実行

- ・重点市場における販売力、販売体制強化整備（ハブ拠点の整備）
- ・インド現法（KND）の設立と拡販体制の構築
- ・マレーシア（KSA）のジョホールバルデモセンターの開設



LITHRONE GX40 Next Generation

◆パラレルメイクレディ+オートパイロット搭載機
 パラレル制御技術で切替作業を極限まで自動化

2020年3月期の重要施策

▶中国市場の直販化による販売力強化

▶インド(KND)、ASEAN諸国(KSA)販売力、販売体制の更なる強化

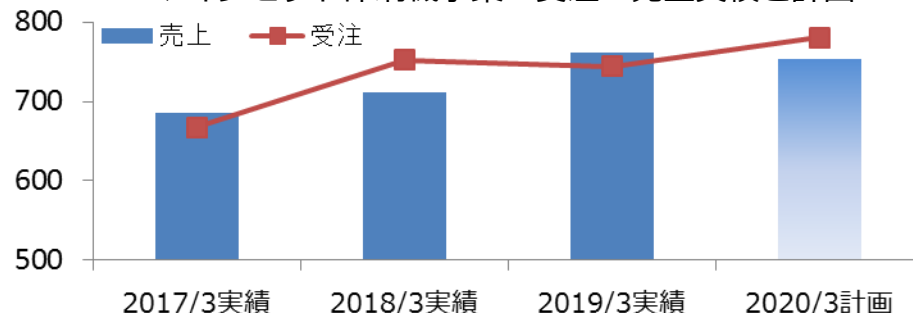
（新商品/PESP商品拡販）

▶日本・欧米市場の高速、高付加価値機の市場投入（drupa商品戦略の実行）

・生産効率を最大化する開発の推進

（パラレルメイクレディ+オートパイロット

（億円） ◆オフセット印刷機事業 受注・売上実績と計画



◆中国市場における販売、サービス体制の構築と販促の状況

- ・ PrintChina2019速報
- ・ 直販体制の構築（中国販売代理店の子会社化）

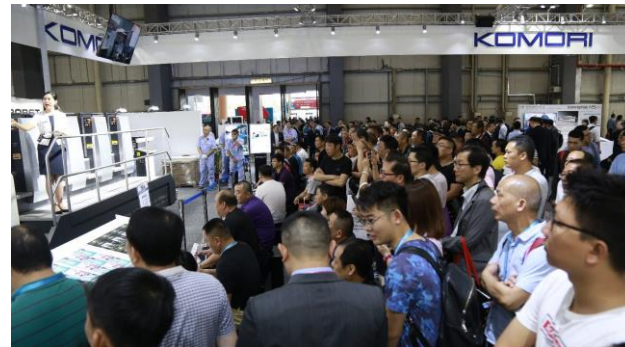
▶ Print China 2019の成果（東莞展） ▶ 中国販売代理店の子会社化を発表

- ・ 期 間：2019年4月9日~13日
- ・ 来場者数：約20万人
- ・ 成約状況：
 - ・ パッケージ／高付加価値機の受注増加
 - ・ W2Pからワンパス両面機の一括受注
 - ・ LA437（中国向けの生産機）受注堅調

- ・ 中国国内の約70%の市場をカバー
- ・ TOP100アカウント攻略
- ・ パッケージ市場のシェア拡大
- ・ DPS機の拡販

<Print China 2019 トピックス>

パッケージ、コマーシャル、DPSの各事業分野毎のソリューションを
実機デモで訴求し連日多くのお客様の来場がありました。



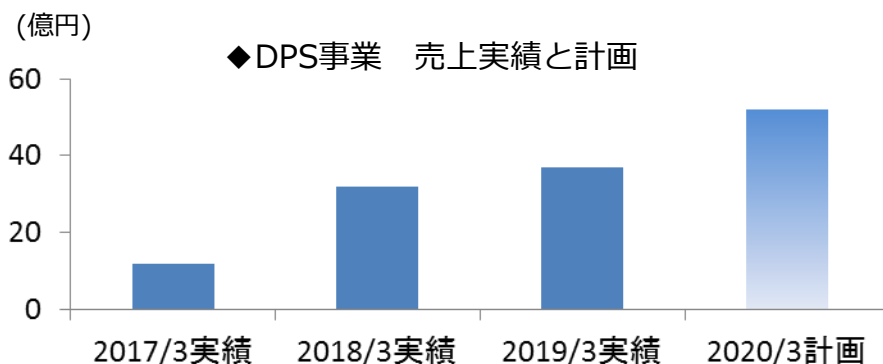
◆連日大盛況の小森ブースの様子

◆ D P S 事業

- ・国内及び海外現地法人との連携強化による販売の強化
- ・高付加価値/差別化技術提案及びパッケージ対応力の強化
- ・NS40βテストの成功

2019年3月期の成果

- ▶ IGAS効果によるIS29の商談件数
大幅な増加
 - ・国内、米国、欧州、中華圏の主要ユーザーからの高い評価を獲得
- ▶ NS40開発β機の完成に向けた
技術課題の解消
 - ・β機の出荷テストのテスト準備完了



2020年3月期の重要施策

- ▶ 国内及び主要市場での拡販強化
 - ・中国東莞展の成果及び直販化による拡販
 - ・高付加価値/差別化技術提案（後加工適正等）の実現による拡販展開
 - ・パッケージ対応の販促
- ▶ NS40βテスト機納入、量産化開始
 - ・2019年国内βテスト機納入及び欧米中向けの販促デモの実行
 - ・drupa2020に向けた商品化の完成と量産開始



Impremia NS40

◆パッケージ印刷のフル生産にも対応できるデジタル印刷機

◆証券印刷機事業

- ・納入機の高い評価を獲得/アジア諸国を中心に受注を拡大の好機（商談は活発）
- ・CURRENCY OnDemand推進(生産効率向上、銀行券デザインの進化＝偽造防止)商品性能、新技術の導入等「証券印刷機システム」を一新（販促強化）

2019年3月期の成果

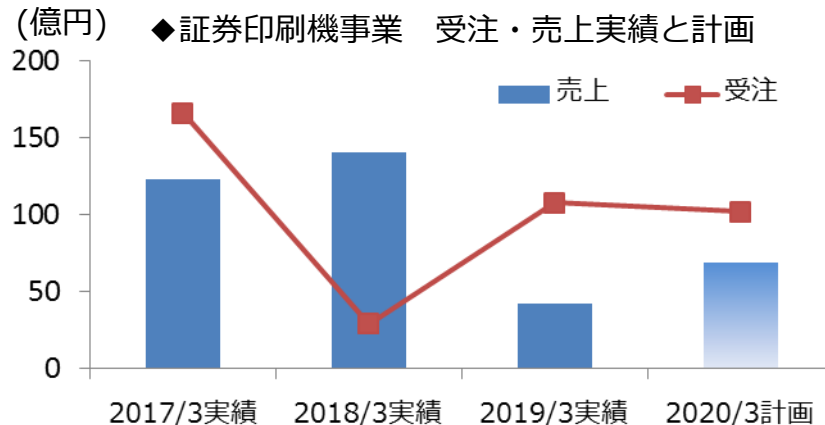
- ▶受注機の円滑な検収完了により各国銀行券の本格生産開始
 - ・英国銀行、CRANE(米国) ヲタ工場他
- ▶重要商談の受注獲得
 - ・フランス、インドネシア、中国、インド各国からの受注獲得
- ▶CURRENCY OnDemand 内覧会の実行
 - ・商談会の成功 14カ国40名参加



◆内覧会の様子

2020年3月期の重要施策

- ▶機種戦略の実行（差別化戦略）
 - ・CURRENCY OnDemandコンセプトを構成するラインナップ機種の完成
- ▶証券印刷機事業のブランド戦略の強化
 - ・BANKNOTEOLGYの開催
 - ・大型ライン商談の受注
 - ・EURO圏への本格的参入



◆BANKNOTEOLOGYの開催（2019年11月25日～12月6日）

- ・ 2019年11月に横浜で開催されるHIGH SECURITY PRINTING ASIA への協賛と当社つくば工場にて販促イベントを開催

<HIGH SECURITY PRINTING ASIAとは>

- ・ 世界約50か国から約200名の中央銀行、紙幣印刷所の幹部が参加
- ・ カンファレンスとともに当社つくば工場にて内覧会を開催し販促を図る

◆CURRENCY OnDemand（高生産性、偽造防止技術）による「ブランドカ」を構築する。

CURRENCY IC 532 III
MULTICOLOR INTAGLIO PRESS



CURRENCY NV 32



CURRENCY LC 32

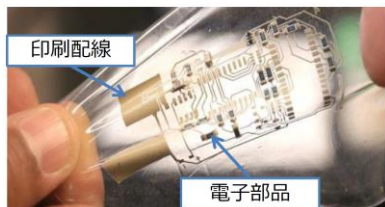
Multicolour Offset Printing Press

◆PE・精密機器事業

- ・国内電子部品業界、P C B 業界向けの差別化した新機種の市場導入
- ・海外特にアジア圏の日系企業及び大手台湾・中国企業への拡販

2019年3月期までの成果

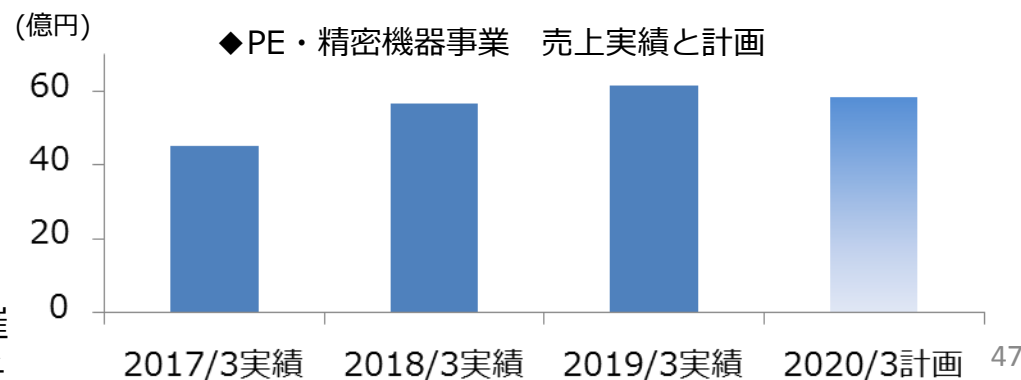
- ▶差別化新機種 of 市場導入
 - ・ギャップレスR2R印刷機の市場導入
 - ・縦型両面印刷機の市場導入
 - ・真空コーターの市場導入
- ▶国内外の産業界、大学、研究機関との連携強化
 - ・NextFlexでの印刷技術を用いた電子部品の実装技術開発等



米国「NextFlex」主催
Innovation Dayの様子

2020年3月期の重要施策

- ▶戦略機の販売強化
 - ・国内、中華圏での販売強化
- ▶国内、海外の生産体制の整備強化
 - ・中国（KNT）の生産強化
- ▶オープンイノベーションの推進
 - ・IoT社会に向けた新技術／商品開発の連携強化



◆PESP事業

- ・ KP-Connectを基軸としたICT Solutionの推進
- ・ 機材/資材販売の商品開発と全世界での販売力強化

2019年3月期までの成果

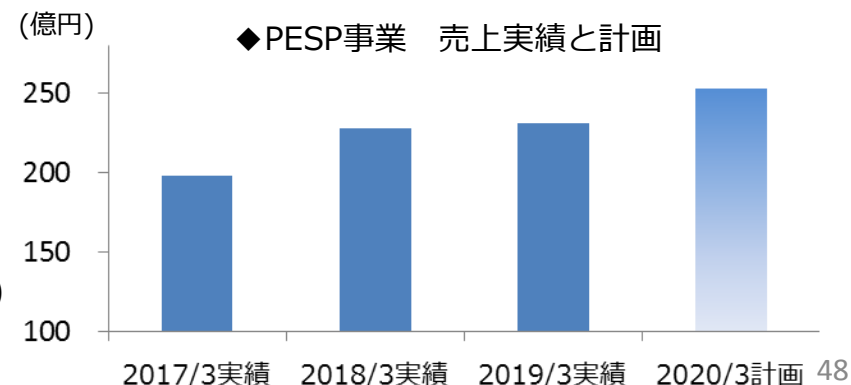
- ▶ 国内PESP事業の販売強化
 - ・ 計画工事/K-INK販売拡大
 - ・ KP-Connect拡大(約350台と接続)
- ▶ 機材ビジネス拡大
 - ・ ポストプレス商品群のラインアップ整備 (ハイエンド断裁機システム、打ち抜き機、ブランカー等)

2020年3月期の重要施策

- ▶ 海外PESP事業の販売強化
 - ・ K-INKの海外展開の推進
 - ・ KP-Connectの海外展開の推進
 - ・ インド、中国現地法人での拡販
- ▶ ICT-Solution拡大
 - ・ KP-ConnectとPre-press/Post-pressの他社との連携強化



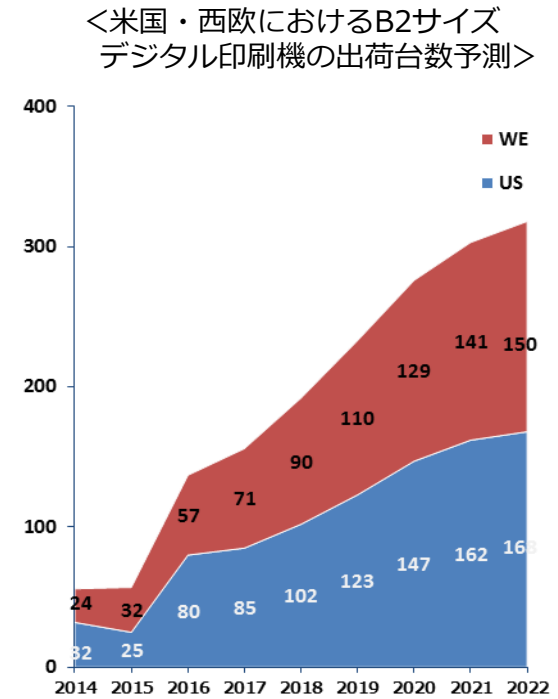
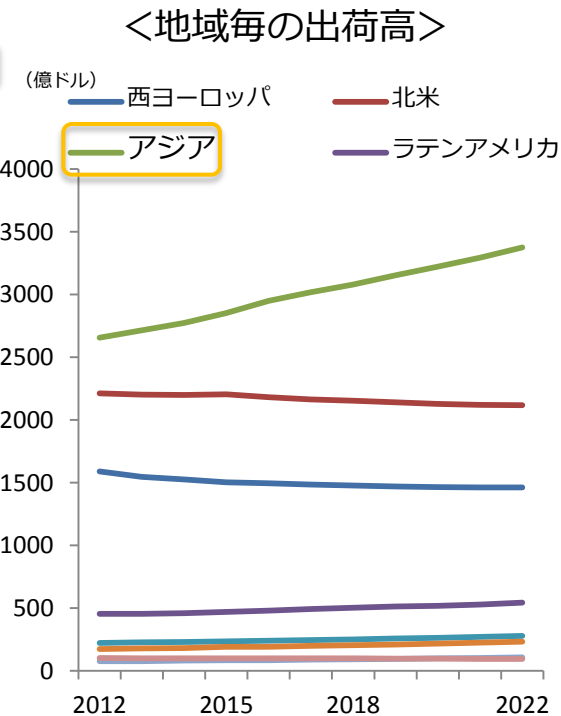
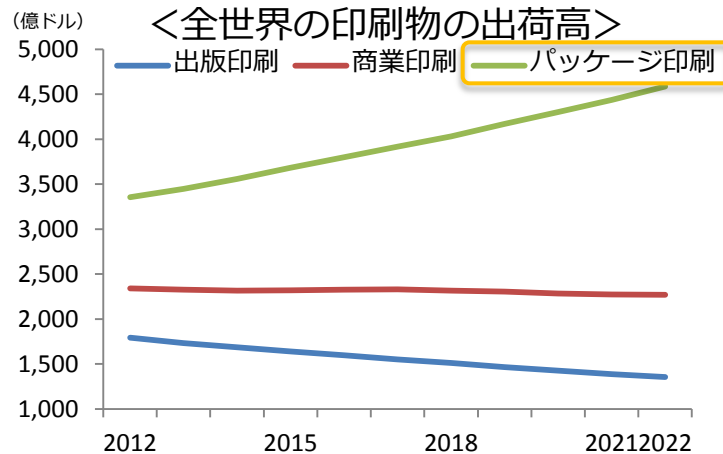
- ◆ハイエンド高効率 全自動断裁システム (アプリシアCTX)
- 断裁加工工程をシステム化し、省人化・省力化を促進



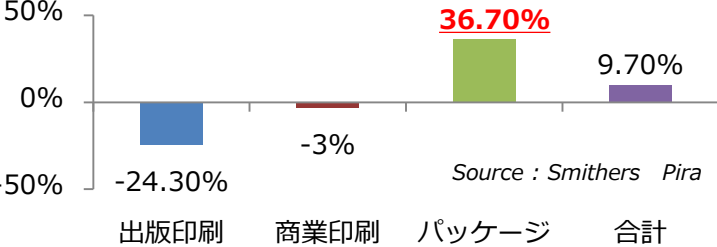
Ⅲ.第6次中期経営計画の方向性

中期経営計画：当社を取り巻く事業環境と当社の方向性 KOMORI

◆パッケージ印刷、アジア圏が大きく成長する見通し。デジタル印刷機市場が急成長中



〈2012→2022成長率〉



Source : Smithers Pira

Source : InforTrends

注力分野	市場動向	当社の方向性
パッケージ	<ul style="list-style-type: none"> 世界的に大幅な成長の見通し 環境問題から脱プラスチック紙器の見直しの動向 	<ul style="list-style-type: none"> 自動化、省人化の深化深耕 KP-Connectプラットフォームとした事業戦略 アジア各国拠点における販売、サービス体制の強化 異なる特性を持ったデジタル印刷機ラインアップの整備 (IS29、NS40)
アジア市場	<ul style="list-style-type: none"> 中国を中心としたアジア市場における印刷市場の成長 	
デジタル印刷機	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化への流れは確実に進展 	

◆ 第5次中期経営計画で芽が出た新規事業を一層推進し、高収益企業への回帰を目指す

達成ビジョン

- ・ 高収益企業への回帰
- ・ 成長分野への参入
- ・ BPOを含む新たなリカーリングインカム事業の確立



重点施策

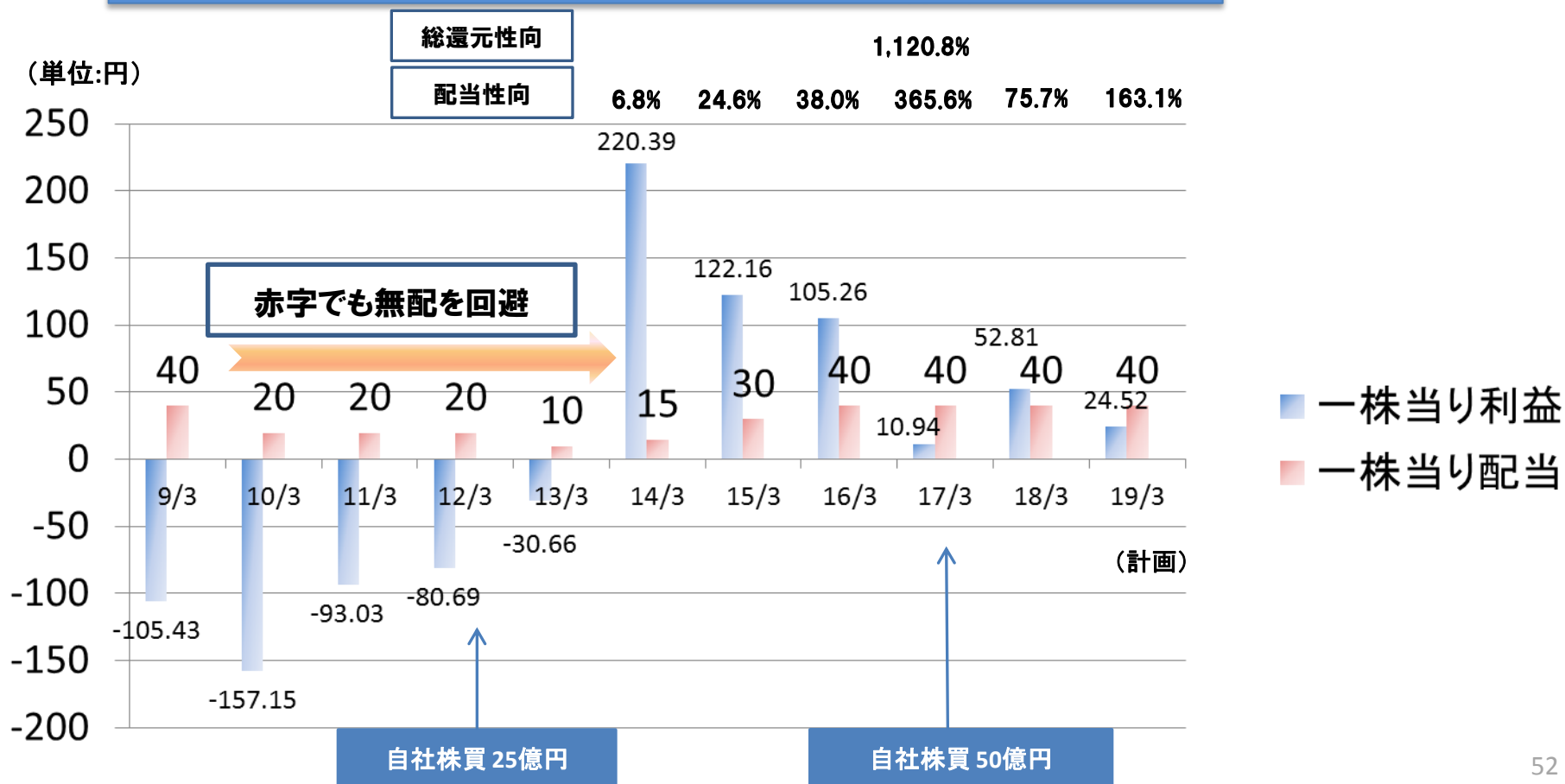
既存事業	オフセット印刷機事業、証券印刷機事業の収益力強化 → キャッシュフロー創出力の強化
重点事業	DPS事業の事業化・収益化 → 重点事業の事業化・収益化
収益構造の 変革	リカーリング・インカム事業の推進 → 継続的な収益モデルの創出
成長事業	成長事業の積極的な投資 → 人財、開発、M&A等の実行等
ガバナンス強化	コーポレート・ガバナンス体制の強化および環境対策の積極的な推進
財務戦略	財務健全性の維持を前提にバランスシートの効率化を意識した財務戦略の推進

株主還元

◆ 第5次中期経営計画('16/4~'19/3)における方針「総還元性向40%以上」に基づき、安定配当および機動的な自社株買いを実行

- 17年3月期：自社株買い 50億円を実施
- 19年3月期：一株当たり 40円の配当を予定
- 20年3月期：**自社株買い 30億円及び400万株の消却を決定(3/25日開示)**

一株当たり利益と配当の推移



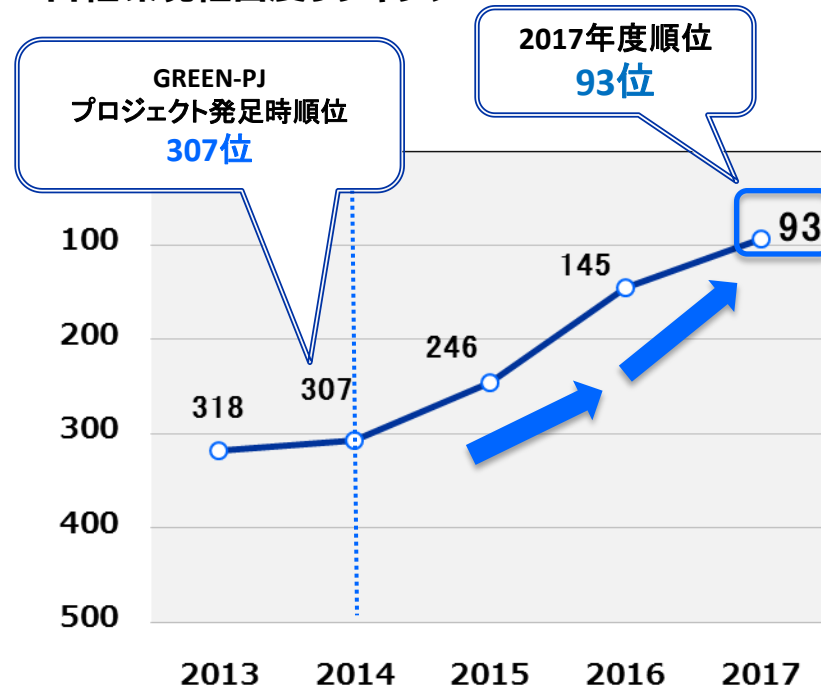
IV. ESG(SDGs)対応（社会・環境への取り組み）

ESG(SDGs)対応 (社会・環境への取り組み)

- ・地球温暖化防止
- ・循環型社会への対応
- ・生物多様性対応
(化学物質リスク低減)



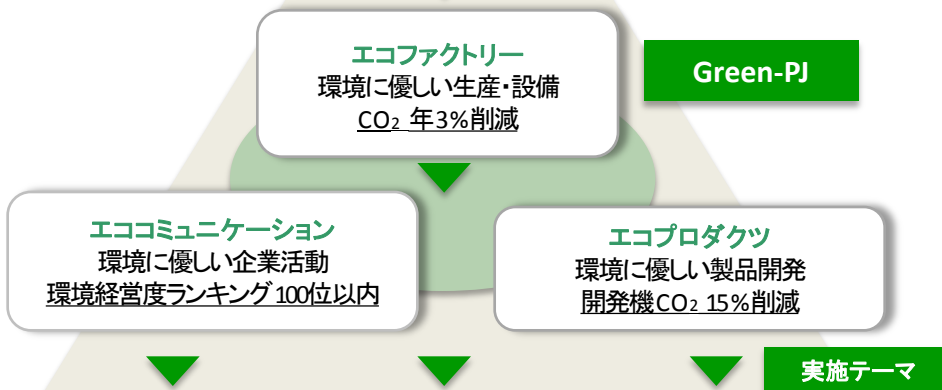
日経環境経営度ランキング



◆当社における環境の取り組みの具体例

▶省エネ型照明

▶太陽光発電



・Scope3導入
(地球温暖化対策)
・グリーン調達推進など

・太陽光発電の導入
・省エネ活動
・廃棄物環境負荷の削減

・折機内照明オートオフなど
開発設計と協力し
省エネ製品の開発

【環境省】

- 環境情報開示基盤事業へ参加
- ESG対話プラットフォームのホームページへ環境情報開示を登録し、公開中

環境省 環境情報開示基盤整備事業

～ ESG 対話プラットフォーム～

企業一覧/Company List

本ページでは、本事業参加企業の状況を掲載しています。
 ■各種報告書へのリンクは、各企業の許諾を受けて事務局が登録しています。なお、事業参加者はコミュニケーションツールからリンクの編集が可能です。事業未参加者でリンクの編集を希望される場合は、事務局までご連絡ください。
 ■コメント最終送信日とは、当該企業が最後にコメントを送信した日を表示しています。
 ■事業参加者は、「この企業にコメントを送る」よりコミュニケーションツールによる対話を開始することができます。但し、参加登録が必要となります。
 ■「Report」 is registered by the project office with permission. You can edit "Report" with the communication tool. If you don't have ID of communication tool, please contact the project office.
 ■"Last comment sent date" indicates the date the company sent the comment last.
 ■Click "Send comments to this company", you can start a dialogue with the communication tool. However, participation registration is required.

※1部上場企業における本事業参加状況をご覧いただけるようにしています。

検索したいキーワードを入力してください。/Please enter keywords you want to search.

証券コード Securities code	法人番号 Corporate number	企業名 Company name	業種 Industry	各種報告書 Report	コメント最終送信日 Last comment sent date	環境情報開示 Environmental Information Disclosure	コメント Comment
6349	9010601010719	株式会社小森コーポレーション KOMORI CORPORATION	機械 Machinery	[日]環境・社会報告書2018 [日]アナニュアルレポート2018 [日]コーポレート・ガバナンス報告書 [日]株主・投資家情報 [英]Komori Group Environmental and Social Responsibility Report 2018 [英]Annual Report 2018 [英]Investor Relations		○	この企業にコメントを送る/Send comments to this company

【環境省】

- 企業版 2℃目標設定支援事業へ参加
- グリーン・バリューチェーンプラットフォームのホームページへCO²排出量のScope 3 算出結果を登録し、公開中

グリーン・バリューチェーンプラットフォーム

サプライチェーン排出量に関する情報プラットフォーム

算定事例 [2018年度↓](#) [2017年度↓](#) [2016年度↓](#) [2015年度↓](#) [2014年度↓](#) [2013年度↓](#) [ページ先頭へ](#)

国内外企業約100社の取組事例を紹介しています。企業の算定目的、算定方法、活用方法、算定の課題などを掲載しております。自社取組みの検討の際にご確認ください。

2018年度 [2017年度↓](#) [2016年度↓](#) [2015年度↓](#) [2014年度↓](#) [2013年度↓](#) [ページ先頭へ](#)

製造業 (金属製品)	製造業 (機械)	製造業 (電気機器)
<p>YKK AP株式会社 窓やドア、ビルファサードなどの建築用プロダクツの設計、製造、施工、販売</p> (PDF/380KB)	<p>株式会社小森コーポレーション 小森コーポレーションは、日本で唯一の紙幣印刷機メーカーでもある、商用印刷機械の製造・販売を行う機械メーカーです。</p> (PDF/319KB)	<p>株式会社 JVCケンウッド オートモーティブ分野、パブリックサービス分野、メディアサービス分野における製品の生産・販売・サービスの提供</p> (PDF/311KB)

ESG(SDGs)対応(社会・環境への取り組み)

重点テーマと重要課題

2015年9月「国連持続可能な開発サミット」において掲げられた「持続可能な開発目標(SDGs)」について、関連性のある目標に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



ESG	課題テーマ	関連するSDGs	重要課題	活動項目
E 環境	エコプロダクト	3 7 12 13	環境に配慮した製品の開発	環境配慮設計 開発機のCO ₂ 削減 VOC回収装置開発 省エネ補機の開発
	エコファクトリー	6 7 12 13	工場・事務所の環境負荷の低減	太陽光発電設備導入 省エネ型空調熱源更新 省エネ型照明導入 節水コマ導入
	エココミュニケーション	4 6 12 15 17	物流・販売・サービスにおける環境負荷の低減	KGCのグローバル貢献活動 水リスク管理 生物多様性保全 KPMJ/森式予防保全 機械長寿命化 リサイクル
S 社会	お客様とともに	8 11 12	顧客感動	KOMORIカレンダー 英国銀行の新紙幣づくり貢献 レスキュートレーニング
	従業員とともに	3 4 5 8 10	人権の尊重 人事・福利厚生	人権の尊重・労働者の権利の尊重 労働慣行・表彰制度 女性の活躍促進 育児支援・介護支援・障がい者雇用 ライフサポート
	お取引様とともに	9 12 16	労働安全 サプライチェーンマネジメント	労働安全衛生・健康づくり 協力企業説明会 特許件数管理
	地域とともに	4 11	教育と文化	小学生工場見学と環境授業 中学生キャリア教育 陸上競技教室 桜街道の美化活動
G ガバナンス	株主・投資家とともに	12 16	株主・投資家との対話	IRイベントの実施 IR情報発信 株主還元
	組織統治	10 16 17	コーポレートガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント	コーポレートガバナンスの確立と体制 コンプライアンス推進体制 KOMORI企業行動憲章 コンプライアンス教育 内部通報制度 自然災害時危機対応マニュアル BCP体制の確立



- ※ 当資料に含まれている業績予想等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。
- ※ 当資料では、表示未満単位を四捨五入して表示しており、内訳と合計が一致しない場合があります。